

2021年度
海洋教育パイオニアスクールプログラム
(地域展開部門)

「地域に根ざした海洋教育」
実践記録集



大阪府阪南市教育委員会

阪南市の海洋教育について

1. 海洋教育に取り組む意義

阪南市は、森・里・川・海が近接し、交じり合うロケーションにあり、これらに支えられる人々が暮らすまちである。

市内には大阪湾の中でも貴重な自然海岸と、尾崎・西鳥取・下荘の3漁港があり、古くから「たこつぼ漁」や「地引き網漁」が行われてきた漁業が盛んな地域である。現在も、昔ながらの方法で「のりやワカメの養殖」が営まれていたり、「カキの養殖」が行われていたりするなど、海と近い生活が息づいている。

学校現場においては、海に比較的近い小学校を中心に、以前から地域の海をテーマとした教育活動を行っている。内容としては、児童にとって身近な存在である大阪湾に生息する生き物や地域の産業として漁港で働く人々について学んだり、実際にアマモ場の再生活動を行ったりすることにより、自分たちの住む地域が海と大きく関わっていることについて理解を深めている。

2018年11月には、阪南市を会場として「全国アマモサミット 2018in 阪南」を開催し、大阪府下で最大規模のアマモ場を擁する阪南の海のすばらしさ、その海を保全・再生させることに携わる人々の活動について発信した。

この全国アマモサミットの開催により高まった地域の自然環境への関わりや保全意識をサミット後も継続、さらに発展させていくことが大切である。海洋教育では、海での活動を通して阪南市の自然のすばらしさを知り、その自然環境を守っていくために主体的、協働的な学習を進めていくことにより、自ら課題を解決していく力をつけていくことをねらいとしている。

2. 海洋教育の実施体制

2019年4月に「阪南市海洋教育推進協議会」の設置要綱を制定し、協議会を立ち上げた。協議会は、学識経験者、海洋教育を行う学校の代表者、外部有識者、市行政職員で構成し、海洋教育実施における課題解決及び新たなプログラム開発に関することなどについて協議を行っている。また、海洋教育の円滑な推進を図るために、各校の海洋教育担当者、外部有識者、市行政職員等で構成する「企画運営部会」を置いている。

2021年度は企画運営部会を中心に、海洋教育副読本の作成を行った。

3. 海洋教育実施校

初年度となる2019年度は、西鳥取小学校、下荘小学校、舞小学校の3校でスタートをした。2020年度からは、尾崎小学校、2021年度からは上荘小学校が新たに加わり、小学校5校を中心として海洋教育の取組みを進めている。

4. 2021年度 海洋教育年間スケジュール

月	2021年度の市の取組み
4	年間計画の立案
5	
6	第1回 企画運営部会（6月4日） ・今年度の市及び学校の活動について
7	第1回 海洋教育推進協議会（6月30日） ・会長、副会長等の選出 ・2020年度事業報告及び決算報告 ・2021年度事業計画案及び予算案についての協議
8	第2回 企画運営部会（7月27日） ・海洋教育研修会の実施方法及び副読本の作成について
9	第3回 企画運営部会（8月30日） ・副読本の作成について
10	第4回 企画運営部会（9月30日） ・副読本の作成について
11	第5回 企画運営部会（10月8日） ・海洋教育研修会、実践報告会について 第6回 企画運営部会（11月22日） ・2022年度 海洋教育パイオニアスクールプログラムの申請について ・副読本作成の進捗状況について
12	第2回 海洋教育推進協議会（11月26日） ・市及び実施校の活動状況について ・2022年度 海洋教育パイオニアスクールプログラムの申請について ・副読本作成の進捗状況について
1	第7回 企画運営部会（12月9日） ・副読本の作成及び実践報告会について 第8回 企画運営部会（1月13日） ・実践報告会及び実践記録集の作成について
2	海の万博セミナーにて市の取組みについて発表（1月14日） 海洋教育研修会（オンデマインド配信形式） ・講演 岩井 克巳 氏（NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター） 河原 美也子 氏（せんなん里海公園自然観察指導員） 海洋教育実践交流 ・実施校同士が取組みをまとめた動画による交流を実施 大阪湾再生推進会議にて市の取組みについて発表（2月25日）
3	実践記録集作成

実施校支援・副読本作成

5. 海洋教育研修会

目的 海洋教育を行う意義や、各校で海洋教育を行う際の活動計画の立て方等について学び、実際に海での活動を教員自らが体験することにより、指導技術を習得するとともに各学校が取り組める実践内容を増やすことで、持続可能な海洋教育の実施体制の構築を図る。

期間 令和4年1月25日（火）～ 令和4年2月27日（日）

形式 オンデマンド配信

対象者

- ・海洋教育実施校教職員
- ・環境教育担当者等
- ・各小中学校の初任者（悉皆）

講師 岩井 克巳 氏（NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター）
「海洋教育実施のツボ」～考え方と計画の立て方～
河原 美也子 氏（せんなん里海公園自然観察指導員）
「事前準備及び安全への配慮」

6. 海洋教育実践報告会

海洋教育に取り組む実践校が取り組みをまとめた動画を作成し、実践校同士で視聴し、感想の交流を行った。

また、実施校が作成した動画を市のウェブサイトに掲載し、広く発信した。

○阪南市ウェブサイト 海洋教育ページ

【URL】

<https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/syogai/gakko/1615283243604.html>

【QRコード】



令和3年度 海洋教育年間指導計画				阪南市立尾崎小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1年生					<ul style="list-style-type: none"> ・ビュッティング ・海の生き物を描こう ・ビーチブレードをつくろう 		<ul style="list-style-type: none"> ・うみのかくれんぼ 								
	関連教科・学習等			生活科 図画工作科			国語								
2年生					<ul style="list-style-type: none"> ・ビュッティング ・漂流物を使って作ろう ・リサイクル 										
	関連教科・学習等			生活科 図画工作科											
3年生					<ul style="list-style-type: none"> ・海藻おしぼを作ろう 										
	関連教科・学習等			総合的な学習・図画工作科											
4年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育 利用授業 			<ul style="list-style-type: none"> ・男里川から大阪湾へ 								
	関連教科・学習等			総合的な学習			理科 総合的な学習								
5年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育 利用授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業ってなに？ ・尾崎漁港へ行ってみよう ・私たちの漁業 			<ul style="list-style-type: none"> ・大漁旗を描こう ・漁師さんへの聞き書き 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんから聞きました（新聞づくり） ・PVE田圃づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの海でワカメを育てよう 		<ul style="list-style-type: none"> ・育てたワカメを収穫しよう ・ワカメを佃煮にしてみよう 			
	関連教科・学習等			総合的な学習 社会科	総合的な学習 社会科			図画工作科・社会科 総合的な学習	総合的な学習	総合的な学習	総合的な学習		総合的な学習 家庭科		
6年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育 利用授業 ・PVE技術採取 ・生き物観察 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにできること 	<ul style="list-style-type: none"> ・PVE種子選別 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを知ろう 							
	関連教科・学習等			総合的な学習	国語科		総合的な学習	総合的な学習							

1年 単元名「海辺の自然に親しもう」

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

- 体験的な活動を通し、楽しみながら海の自然や資源に親しみを持つことができる。
- 地域の海の生き物や環境に興味を持ち、進んで海に関わることができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

- ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。
- ・浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりすることができる。

○思考力、判断力、表現力等

- ・見つけたものや収集したものについて、気づいたことや感じたことを、他者に伝えることができる。

○学びに向かう力、人間性等

- ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物に興味を持ち、進んで活動に取り組んでいる。
- ・気づいたことや感じたことを自分なりに表現しようとしている。

3. 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○ビーチコーミングを行う。【生活】	○準備物
	2	・ビーチコーミングについて話を聞く。 ・尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。 ・浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりする。	作業用手袋・ビニール袋・レインコート・体育館シューズ・替えのくつ下・タオル
	3	・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物について、気づいたことや感じたことを観察カードに書く。	○安全面についての事前指導を行う。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター：岩井克己さん ○観察カードに記入する。 (見たこと・さわったこと・におったこと・聞いたこと・思ったこと)

2	4	○フォトフレーム作りをする。【図工】	○準備物 フォトフレームセット・カラー紙粘土・収穫した貝殻・シーグラス・ニス
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した貝殻やシーグラスを洗い、乾かしておく。 ・デザインや貝殻などを置く場所を考えて、下絵を描く。 ・フォトフレームを組み立てる。 ・フォトフレームにカラー紙粘土で飾りつけをし、貝殻やシーグラスを埋め込む。 ・ニスを塗る。 ・作品の題名をつけ、展示する。 	

4. 他教科等との関連

○生活科「がっこうの まわりを あるいてみよう」

- ・学校の周辺にある自然や人々、施設などに気づき、その様子を感じながらみんなで歩いたり自分の地域を見直したりする。

○図工科「うみの いきものを かこう」「フォトフレームをつくろう」

- ・海で見つけた生き物を描く。
- ・ビーチコーミングで収穫した貝殻やシーグラスを使って、フォトフレームを作る。

○国語科「うみの かくれんぼ」

- ・海を見た経験や、遊んだ体験、知っている海の生き物などについて話す。
- ・何が、どこに、どのようにかくれているか、見つけながら読む。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

ビーチコーミングを通して、尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知り、進んで活動に取り組むことができる。

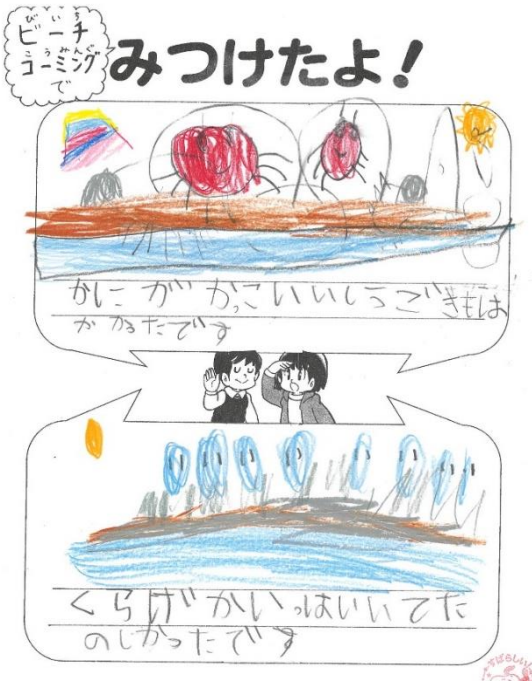
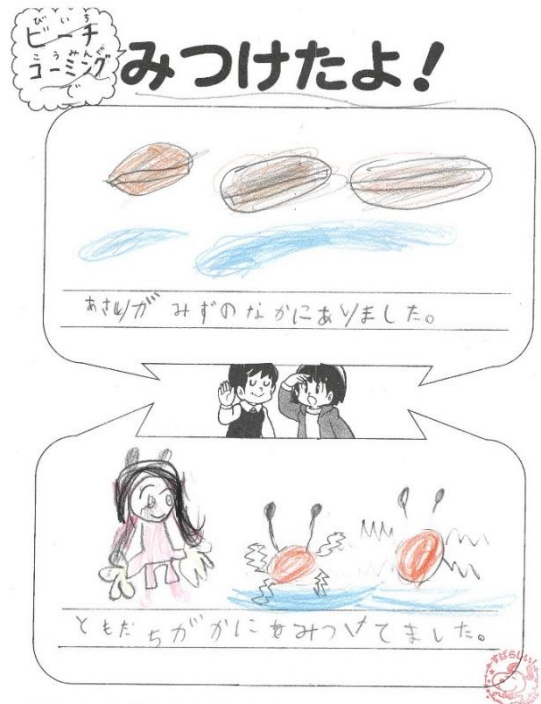
(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○ビーチコーミングについて、講師の方のお話を聞く。(活動についての注意や、浜辺に生息する生き物、漂流物について等)	○安全面に配慮する。 ・危険なものは触らない。 ・許可された範囲で活動する。 ・生き物は観察のみとする。
25	○浜辺で見つけたものや、打ち上げられた漂流物を収集したり観察したりする。 ・持ち帰るものはビニール袋に入れる。	○安全面や体調面に配慮しながら全体を見守る。

10	○ふりかえりをする。	○次時の活動に意欲を持つことができるよう、声かけする。
----	------------	-----------------------------

6. 成果と課題

- ・出発前は「海が苦手だ。」と言っていた児童も、到着後は友だちと一緒に楽しそうに活動に取り組むことができた。
- ・体験的に活動することを通して、自分たちの身近な海に興味を持ち、尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知ることができた。
- ・1年生にとっては海洋教育の第一歩であったので、今回得られた海への興味・関心や活動に対する意欲を、今後の活動へとつなげていきたい。



2年 単元名「海辺の自然に親しもう」

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

○身近な海辺の生き物とのふれあいを通して、自分たちの住んでいる地域の海に興味を持ち、海辺の自然に親しむ心情をもつことができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

尾崎の海や浜辺に生息する生き物について知る。浜辺に打ち上げられた漂流物や見つけたものを、収集したり観察したりする。

○思考力、判断力、表現力等

収集したものや見つけたものについて、感じたことやわかったことをわかりやすくまとめたり、他者に伝えるために工夫したりして表現する。

○学びに向かう力、人間性等

尾崎の海や浜辺にいる生き物や漂流物に興味を持ち、進んで取り組んでいる。わかったことやまとめたことを、友だちに伝えようとしている。

3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 2	○チリメンモンスターを探す。【生活】	○準備物 ルーペ・皿・つまようじ・ボンド PC・プロジェクター・スクリーン ☆チーム★ガサ
2	3 4 (本時)	○ビーチコーミングを行う。 ・身近な海に生息する生き物について知り、浜辺に打ち上げられた漂流物を収集したり、観察したりする。【生活】	○準備物 軍手・ビニール袋・レインコート 体育館シューズ・かえのくつ下 ○安全面についての事前指導を行う。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター：岩井 克己さん
	5	・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物につ	○ワークシートに記入する。

		いて、わかったことや感想をワークシートにまとめて紹介する。【生活】	(見たこと・さわったこと・におったこと・聞いたこと・思ったこと)
3	6 7 8	○フォトフレーム作りをする。【図工】	○フォトフレームの下絵を描く。 ○準備物 フォトフレーム・紙粘土・絵の具 貝殻・シーグラス

4. 他教科等との関連

○生活科「町のすてきをさがしに行こう」

- ・町たんけんを通して、見つけたことや気付いたことなどを友だち同士で紹介し合う。

○図工科「フォトフレームを作ろう」

- ・ビーチコーミングで収集した貝殻やシーグラスを使って工作する。

○国語科「スイミー」

- ・お話を読んで、紹介する文章を書く。

○国語科「こんなもの、見つけたよ」

- ・見つけたものを組み立てを考えて文章にし、友だちに知らせる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

ビーチコーミングの活動を通して、海や海辺に生息する生き物について興味・関心を持つことができる。

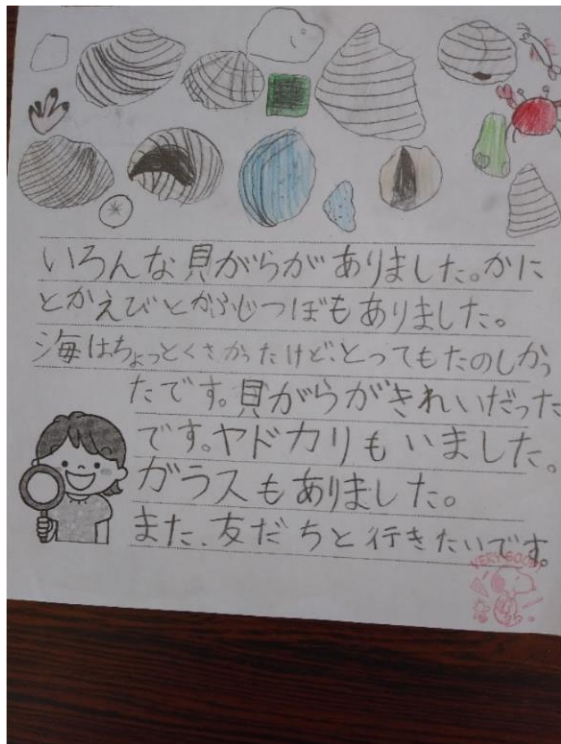
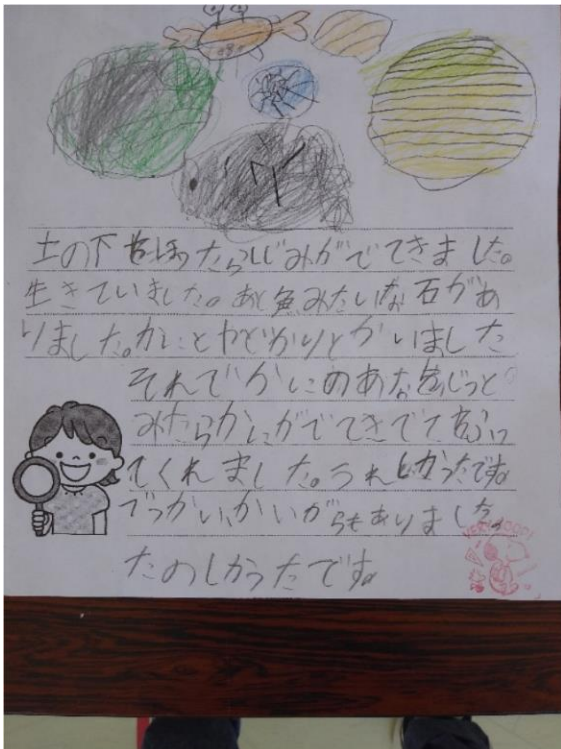
(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準
1 2	○ビーチコーミングの活動を行う。	○安全面に配慮する。 ○収集したり観察したりするポイントを伝える。	○海や海辺の生き物に興味・関心を持ち、進んで取り組んでいる。

6. 成果と課題

- ・子どもたちは、1年生の時にもビーチコーミングを行っていることもあり、海辺に生息している生き物の名前をよく知っていた。貝殻やシーグラスなどを収集したり観察したりする活動に、最後まで意欲的に取り組むことができた。
- ・収集したものをを使ってのフォトフレーム作りでは、楽しんで活動することができた。

7. 子どもの感想・様子



3年 単元名 「海藻のふしぎ発見」

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

○身近な海に生きている海藻について知り、そのはたらきや海に与える影響を学ぶことで、海に対する関心を深める。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

尾崎の海に生きている海藻について、そのはたらきを知る。

○思考力、判断力、表現力等

海藻の色や形、特徴を生かして自分の考えを作品に表現する。

○学びに向かう力、人間性等

海藻に興味をもち、進んで海藻に触れたり、海藻のことを知ろうとしたりする。

3. 単元の指導計画（全2時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海藻について知る。 ・ 阪南市の海で見られる海藻について講師の方のお話を聞き、海藻に関心をもつ。 ・ 海藻のはたらきについて知り、海藻が海や環境にどのような影響を与えているかを学ぶ。	○パワーポイントを使用し、プロジェクターを使って写真や映像を見る。 ○海藻についての説明・海藻おしば製作から、後日製作物を返却してもらうまでを依頼する。
	2	○海藻おしばを作る。 ・ 海藻の特徴や性質を知り、それぞれの工夫の仕方を考える。 ・ 自分の考えた海藻おしばを製作する。	☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター：岩井 克己さん

4. 他教科等との関連

○理科「植物の育ちとつくり」

・ 植物や根・茎・葉からできていることを学ぶ。

○社会科「わたしたちの市の様子」

・ 阪南市について学ぶ中で、身近な海のことや海に関係する仕事があることを学ぶ。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

海藻おしば体験を通して、海藻に興味を持ち、海藻を使って自分の考えを表現することができる。

(2) 本時の指導計画（2時間）

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
40	○海藻について知る。 ・阪南市の海で見られる海藻について講師の方のお話を聞き、海藻に関心をもつ。 ・海藻のはたらきについて知り、海藻が海や環境にどのような影響を与えているかを学ぶ。	○パワーポイントを使用し、プロジェクターを使って写真や映像を見る。
45	○海藻おしばを作る。 ・海藻の特徴や性質を知り、それぞれの工夫の仕方を考える。 ・自分の考えた海藻おしばを製作する。	○ピンセットを使う場面があるため、安全に配慮する。 ○細かい部分をうまく作れない児童には、必要に応じて声掛けや補助をする。
5	○振り返り ・本時の活動を振り返る。	

6. 成果と課題

- ・子どもたちは初め、海藻についてあまり興味がなかったようだが、最初に見せていただいた海藻おしばの作品を見てから学習に対する関心・意欲が高まり、休み時間も近くで作品を見たいと並ぶほどであった。
- ・欠席した児童にも、手本で作った海藻おしばをいただくことができ、喜んでいた。



4年 水辺をスマイルプロジェクト ～尾崎の町に笑顔を増やそう～

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

- 社会科の学習で健康な暮らしを支えるために、ごみの処理や下水の処理の仕組みを学ぶ中で、ごみやよごれた排水そのものを減らしていくことが自分たちにできる環境保全の取組みの一つだと気づくことができる。
- 校区内にある地域の海での生き物の観察を体験することで、地域の環境を保全していくのだという意識を持つことができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

- ・ごみの処理の仕組みや再利用などについて学び、ごみを減らすために自分たちにできることについて考えている。
- ・校区の海に出向き、アマモ場やそこに生息する生き物を観察し、アマモ場を再生していくことで豊かな海の環境を守ることができると思うとしている。
- ・食品ロスについての理解を深め、食品ロス削減と環境保全とのつながりについて調べている。
- ・自分たちの生活が地域の環境に与えている影響について調べている。

○思考力、判断力、表現力等

調べたことをもとに、地域の環境を保全するために何ができるのかを考え、その解決に向けてできることを効果的に発信しようとしている。

○学びに向かう力、人間性等

身の回りの環境問題に対して、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、他者と関わりながら課題解決に取り組もうとしている。

3. 単元の指導計画（全28時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 ～ 13	「ごみのしよりと活用」（社会科） ごみを処理の仕組みや再利用などについて学び、 ごみを減らすために自分たちにできることについて考える。	○コロナ禍のため、清掃工場への見学やパッカー車体験ができなかった。その代わりにタブレットで録画した職員の方のインタビューや作業している様子を動画でみせた。 ☆阪南市資源対策課の方々
	14	海洋教育「水辺をスマイルプロジェクト」	○ゲストティーチャーを招い

	～ 1 6	(総合的な学習の時間) 校区の海に出向き、高学年が再生に取り組んでいるアマモ場やそこに生息する生き物を観察する。 地域の海にはアマモ場があり、アマモ場を再生していくことで豊かな海の環境を守ることができることを知る。		たり、体験活動をしたりすることで、地域の海の豊かさを感じさせる。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター：岩井 克己さん
3	1 7	「食べ物の声を聞こう」(社会科) 食品ロスについての理解を深め、食品ロス削減のために何ができるのか、自分の問題として考え、実践する計画を立てる。		○恵方巻やクリスマスケーキが大量に廃棄されている写真や動画「のこりものがたり」を見せることで、食品ロスの問題について実感を持たせる。 ☆栄養教諭
4	1 8 ～ 2 8 (本時)	「水辺をスマイルプロジェクト」 自分たちの生活が地域の環境に与えている影響について調べ、地域の環境を保全するためにできることを発信する。	「ポスターでメッセージを伝えよう！」 (図画工作) 地域の環境を保全するために、食品ロス削減を呼びかけるポスターを描く。	○上記の2で子どもたちから出た意見「ポスターで町の人々によびかける」ことを実践するためにポスターを描く意識させる。 ○SDGs の目標にもつながることを示唆する。

4. 他教科等との関連

○社会科「ごみのしよりと活用」「食べ物の声を聞こう」

- ・ごみを処理の仕組みや再利用などについて学び、ごみを減らすために自分たちにできることについて考える。
- ・食品ロスについての理解を深め、食品ロス削減のために何ができるのか、自分の問題として考え、実践する計画を立てる。

○図画工作科「ポスターでメッセージを伝えよう！」



- ・地域の環境を保全するために、食品ロス削減を呼びかけるポスターを描く。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・調べたことをもとに、地域の環境を保全するために何ができるのかを考え、その解決に向けてできることを効果的に発信できるよう計画を立てる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	<p>「尾崎の水辺」を「スマイル」にするために、私たちにできることは何だろう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、課題意識を持ち、自分たちにもできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに住んでいたけれど、はじめてこの海に入った。 ・福島海岸にこんなにたくさん生き物がいるなんてびっくりした。 ・生き物と思って網ですくったら、プラスチックのごみだった。 ・アマモが生えているところにたくさん生き物がいた。 ・食べ残したお味噌汁を家庭排水として流してしまうと、きれいにするためにとてもたくさんの水が必要なことに驚いた。 	
25	<p>「水辺をスマイルプロジェクト」の計画を考えよう。</p> <p>○現状や問題点を確認し、その解決方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「尾崎の海」を生き物がたくさん暮らせる海にしていきたい。 ・SDGsの「14海の豊かさを守ろう」につなげたい。 ・栄養教諭に教えてもらった「食品ロス」問題は、水質汚染にもつながる。みんなに「食品ロスの削減」を呼びかけよう。 ・ポスターを描いて、街の人にも呼びかけよう。 <p>○活動内容を決め、各班で、具体的な準備や計画について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の集会で呼びかけよう。 ・尾崎の町のことから、ポスターは町の人にも見てもらえるところに貼りたい。 	
10	<p>○学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族にも意見を聞いてみよう。 ・はやく活動をすすめたいな。 ・また、海について変化を見続けたい。 	

6. 成果と課題

- ・資源対策課の方や環境保全に関わる方々に出会い、話をうかがうことで、子どもたちの興味は増し、その後の実践への積極的な姿勢につながった。
- ・自分たちの住んでいる地域をよりよくしたい、という思いが体験活動の中で生まれていった。
- ・タブレットを活用することで、地域だけでなく、より広い世界での環境保全について知ることができ、次への課題を見出そうとすることができた。

7. 児童の感想・様子

- ・給食を残さず食べる日が多くなった。
- ・レジ袋で苦しんでいる海の生き物の話を家族にして、マイバッグを持ってもらうようにした。
- ・近くのコンビニのおじさんにポスターをはるお願いをしたら、笑顔で引き受けてくれてうれしかった。

5年 単元名 海とともにいきる

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

○漁港で働く人々の海と共に生きる姿を通して、自分たちの町にある漁港や大阪湾での漁業、海の文化や歴史に関心を持ち、わが町の誇りとしてとらえ海と関わることができるようにする。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

「漁港での仕事」「漁港で働く人々」について調べたことを通して、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。また、漁業が昔から自分たちの暮らす町を支える産業であることを知る。

○思考力、判断力、表現力等

漁港で働く人々の様子や仕事を、見学や聞き書きを通して知ったことを、自分たちの暮らす町と海との関わりについて、新聞やスライドなどの表現物に表す。

○学びに向かう力、人間性等

漁港で行われている漁法や漁師さんの仕事に関心を持ち、知りたいことや疑問に思ったことを積極的に調べ、自分たちの暮らす町に誇りをもつ。

3. 単元の指導計画（全17時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～ 2	尾崎漁港を知る ○校区に広がる尾崎の海で昔から営まれてきた漁業について漁港を見学し、尾崎の海や漁師という仕事に関心を持つ。(3)(2・3/3 本時) ・私たちの海でこんな魚がとれるんだ ・せりってどういう雰囲気で行われるのかな。	※漁港見学前に、事前に尾崎漁港ではどのような漁法で漁をしているのか、その漁法でどんな魚がとれるのかなどについて考えさせておく。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造センター：岩井 克己さん
2	3～ 12 (本時)	海で働くことを知る ○漁師さんへ聞いてみたいことを考える。(2) ・漁師さんになった理由は何だろう。 ・漁師さんの仕事をしていてよかったことは何だろう。 ○漁師さんへ聞き書きをする。(4) ・漁師さんの仕事ってすごいなあ。	○社会科の学習において、漁業の抱える問題点や漁法の種類について事前に学び、漁港見学の際に知ったことなどをもう一度想起させておく。 ○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだインタビュー

		<ul style="list-style-type: none"> ・魚をとるってとても大変なことなんだな。 <p>○聞き書きしたことをスライドにまとめ伝える。 (4)</p>	<p>ューの仕方を確認しておく。 ☆NPO 法人 共存の森ネットワーク：吉野 奈保子さん</p>
3	13 ～ 15	<p>海で育てる</p> <p>○アマモの苗床づくりをする。(1) 6年生が採取したアマモの種を海に植える。</p> <p>○わかめの種糸付けをする。(1) 尾崎漁港で行われているわかめの養殖を体験する。</p> <p>○わかめの収穫を行う。(1) 種糸付けをおこなったわかめを収穫する。</p>	<p>○海に植えるだけではなく、学校内に水槽を用意し、成長を見られるようにする。 ☆NPO 法人 大阪湾沿岸域環境創造センター：岩井 克己さん</p>
4	16 ・ 17	<p>海とともに生きる(2)</p> <p>○一年の活動をふり返る。 一年間をかけておこなってきた活動をふり返り、「海とともにいきていく」ために何が大切かを考える。</p>	<p>○今年一年の活動を通して、地域に海があることやその海で働くことの大切さを考えさせる。</p>

4. 他教科等との関連

○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えあう内容を検討する。

- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

○社会科「水産業のさかんな地域」

- ・水産業に従事している人の工夫や努力、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・漁港で働く方の姿を通して、漁業の仕事の大変さややりがいを知る。

- ・漁港で働く事について知り、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。

(2) 本時の指導計画

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○始めのあいさつをする。 クラス代表が、漁港見学をさせていただくことの感謝の思いを伝える。	<p>○事前にクラス代表を決めておく。 クラス代表の役わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始まりのあいさつ ・終わりのあいさつ <p>○事後学習で、見学したことを新聞にまとめることを伝えておき、そのためのメモを取らせる</p>
80	○漁港を見学する。 尾崎漁港で行われている、板引き網船やセリ場の様子の説明を聞き、そこで疑問に思ったことを質問し、メモを取る。	<p>○見学中は、漁業協同組合の方に説明していただき、その後で質問を受け付ける。</p> <p>○見学の始まる前に、メモを取るためのプリントを配布しておく。</p> <p>○セリがあるかどうかを、見学する日の朝に漁業協同組合に確認しておく。</p>

5	○お礼を伝える クラスの代表があいさつをし、今日聞いたことのお礼を伝える。	○見学させていただいたことの謝意と見学の感想を伝えさせる。
---	--	-------------------------------

6. 成果と課題

社会科で漁業についての学習が2学期から始まり、自分たちの見てきたことや感じたことを通して考えることができた。また、漁業が抱える問題が遠くで起こっている問題ではなく、自分たちの身近な問題であることを感じる子どももいた。その流れの中で、漁師の方からの聞き書きを行うことができ、漁業への関心を高めることができた。

7. 児童の感想・様子



6年

阪南市の海ってすごい！

～アマモ場に生息する生物の多様性～

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

自分たちの住むまちにある尾崎の海での生き物観察やアマモの再生活動を通して、生物の多様性や海の豊かさを知り、海辺の環境と人々の生活との関わりについて考え、自然環境を守る実践力を養う。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

大阪湾の中で、阪南市の海岸が数少ない自然海岸であることや、実際に尾崎の海の生き物を観察したり、アマモ場の再生活動に携わったりすることで、生物の多様性や海の豊かさを知る。

○思考力、判断力、表現力等

自分たちの生活における環境問題やその解決のためにできることを効果的に発信しようとしている。

○学びに向かう力、人間性等

身の回りの環境問題に対して、意欲的に粘り強く他者と関わりながら課題解決に取り組もうとしている。

3. 単元の指導計画（全7時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～3	<p>○アマモの苗床移植</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度から学校で育てていたアマモを、今までアマモ場のなかったところへ移植を行う。 <p>○アマモの花枝採集</p> <ul style="list-style-type: none">・アマモ場を増やすために、花枝を採集する。（事後に花枝から種子を選別する予定であったが、種子が少なく未実施。） <p>○生き物観察</p> <ul style="list-style-type: none">・アマモ場で生息する生物を探す。・地引網体験を通して、様々な生物について知る。	<p>○日常的にアマモの観察を行わせる。</p> <p>☆NPO 大阪湾沿岸環境創造研究センター：岩井 克己さん</p> <p>○安全に活動できるように声かけをする。</p> <p>○見つけることができた生物について写真に撮ったり、説明してもらったりする。</p>

2	4	○海洋教育まとめ ・2年間通して行ってきた海洋教育について振り返る。	
3	5～7	○SDGsについて学習する。 ・「SDGs すごろく」を行う。 ・SDGsの17目標について学ぶ。 ・海洋教育との連携を図り、14「海の豊かさを守ろう」を中心に、環境を守ろうとする意識を高める。	・SDGsについて調べる際には現状と自分にとって何ができるかを考えさせる。

4. 他教科等との関連

○国語科「私たちにできること」

- ・身の回りにある問題について自分たちで解決する方法を考え、他者へ解決方法を提案するための文章を書く。
- ・効果的に伝えるために、タブレットのスライドを用いる。

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

- ・生物のつながりについて興味・関心をもち、生物と環境についての考えをもつことができるようにする。
- ・身近な環境問題を調べ、生物と環境との関わりについての考えをもつことができるようにするとともに、自然を大切にしようとする態度を育てる。

○社会「世界の中の日本とわたしたち」

- ・SDGsについて、自分の興味関心のある目標を調べることを通して学ぶ。
- ・特に14「海の豊かさを守ろう」については海洋教育と関連付けて重点的に扱う。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分たちの住む地域の特色である海について考える。
- ・地域の海だけではなく、自然環境に着目させて、水の大切さを考えさせる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○社会科で学んだSDGsと理科の自然とともに生きるという単元から、水の循環や、14「海の豊かさを守ろう」と関連付けることを確認する。	水に関連することをめあてにする。
35	○各自、タブレットを用いて調べ、ドキュメントかスライドにまとめる。	・現状（確かな情報）と自分のできることを考えさせる。

6. 成果と課題

成果

- ・自分事だけでなく、世界規模として環境を守ることの大切さに気付くことができていた。
- ・自然環境を守るために自分でできることについても考える子どももいた。
- ・社会科、理科と2つの科目で環境について扱っていることから、今後2030年までのSDGsについて、意識が高まった。

課題

- ・小学校だけで終わるのではなく、中学校での学習にどのようにつなげていくのかは、小中連携を密にして取り組んでいく必要がある。

令和3年度 海洋教育年間指導計画				阪南市立西鳥取小学校									
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生				ビーチコーミング(浜辺の生き物探し)								チリメンモンスター探し	
	関連教科・学習等			生活/図工(石ころアート)								生活	
2年生				ビーチコーミング(浜辺の生き物探し)	まわたんけん(海のこと)							チリメンモンスター探し	
	関連教科・学習等			生活/図工(フォトフレーム作り)	生活							生活	
3年生					海藻おしぼ教室				アマモ活動引継ぎ アマモの苗木づくり・播種			魚調べ	
	関連教科・学習等				図工				理科・総合			総合	
4年生			アマモ苗移植	アマモ花枝採取・生き物一斉調査			アマモ種子選別		アマモ活動引継ぎ			海苔すき体験	
	関連教科・学習等		総合/社会「ごみの処理と活用」	総合/社会「暮らしを支える水」	総合/社会科「漁業について」		総合/社会「暮らしを支える水」	総合/社会科「新しい水」	総合/国語「新聞を作ろう」			総合	
5年生				田植え 漁港の座学	漁港見学		臨海学校	稲刈り		ワカメ種系付け		ワカメ収穫	
	関連教科・学習等			総合/社会科「農業・漁業について」	総合/社会科「漁業について」		総合/社会科「漁業について」	総合/社会科「農業について」		総合/社会科「漁業について」		総合/家庭科「調理実習」	
6年生				稚魚放流	給食アイデア募集				漁師さんからの聞き書き			実践報告会	
	関連教科・学習等			総合	家庭				総合/キャリア教育			総合/国語	

1年 単元名 「ビーチコーミングを楽しもう」(海に親しむ)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

自分たちの住んでいる地域の浜辺に打ち上げられた漂着物や見つけた生き物を収集したり、観察したりすることによって、海に親しむ心情を育てる。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

西鳥取の海に生息する生き物について、本やパンフレットを使って調べ学習をして学ぶ。収集した貝殻についてインターネットで調べて種類などを知る。

○思考力、判断力、表現力等

ビーチコーミングを行い、収集したものや見つけたものについて、感じたことやわかったことをわかりやすく他者に伝えるために工夫して表現する。

○学びに向かう力、人間性等

西鳥取の海や浜辺にいる生き物や収集物に興味をもち観察している。分かったことや、調べたことをまとめて友だちに伝え合っている。

3. 単元の指導計画(全5時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○阪南市の海について考える。 ・海での体験について話し合うことや、阪南市の海に生息する生き物が載っているパンフレット、本を見て生態系を知る。【生活】	○児童が海の生き物について調べられるように、図鑑などを準備する。
2	2 3 (本時)	○ビーチコーミングを行う。 ・身近な海に生息する生物を知ったり、海岸などに打ち上げられた漂着物を収集し、観察したりする。【生活】 ・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物についてわかったことや感想をワークシートにまとめて紹介する。 【生活】	○海辺での活動の危険な行為や注意点を事前に指導する。 ※準備物 カメラ ☆岩井さんに講師依頼 ○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・あったこと・聞いたこと・感じたこと)
3	4	○持ち帰った貝殻やシーグラスで鉛筆立てを作成する。 【図工】	○準備物 鉛筆立て用カップ・紙粘土・ボンド・

			絵の具
4	5	○チリメンモンスターを探す。【生活】	☆チームガサの方たちが準備を行ってくれた。

4. 他教科等との関連

○生活科「みつけたひみつをつたえよう」

- ・浜辺で見つけた貝殻やシーグラス、生き物について観察したり、調べたりしてわかったことをワークシートにまとめて友だちに紹介する。

○図工科「工作」

- ・鉛筆立て用カップに、絵の具で色をつけた紙粘土を貼り付ける。その上に貝殻やシーグラスを装飾する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

収集した貝殻やシーグラス、生き物を観察したり、調べたりしたことをワークシートにまとめて紹介する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・準備物
10	○ちりめんモンスターでの活動を振り返る。	○楽しかったことや思ったことを出し合わせる。 ○ビーチコーミングの写真を見せて、当時の様子をすぐわかるようにする	※プロジェクターの準備
10	○ビーチコーミングの感想や見つけたものを調べてわかったことをワークシートに書く。	○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・におったこと・聞いたこと・感じたこと)	○ビーチコーミングで学んだ知識をまとめることができる。 【知識・技能】
20	○活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。 ・見たこと ・さわったこと ・におったこと ・聞いたこと ・感じたこと	○ワークシートに記入した観点ごとに発表させる。	○自分の考えを伝えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】 ○観点に沿いながら、自分の言葉で伝えている 【思考力、判断力、表現

5	○本日の活動をふりかえる。	○ふりかえりワークシートの活用。 ○ふりかえりの中で、拾ったものでどのようなものを作りた いかを書かせる。	【カ等】
---	---------------	---	------

6. 成果と課題

【子どもの感想から】

- ・きれいな貝殻を見つけたよ。きれいな石を見つけたよ。初めてクラゲを見たよ。海には、たくさんのものがあったよ。
- ・今日、シーグラスのことがわかったよ。初めてシーグラスを見つけたよ。とてもきれいだったよ。また見つけたいな。
- ・海には、魚だけでなく、貝殻やきれいな石もあったので、これからもっと海について調べたいと思いました。

2年 単元名 「海の生き物について調べよう」(海に親しむ)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

ちりめんmonster探し体験を通して、海の生き物に関心を持つことができる。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

- ・西鳥取の海に生息する生き物について、本やパンフレットを使って調べ学習をして学ぶ。
- ・ちりめんmonster探しで知った魚について、本やインターネットで調べて種類などを知る。

○思考力、判断力、表現力等

ちりめんmonster探しの体験を通し、感じたことやわかったことをわかりやすく他者に伝えるために新聞や図鑑などで工夫して表現する。

○学びに向かう力、人間性等

- ・海の生き物などとのふれあいを通して、海の自然に親しみ、進んで西鳥取の海にかかわることができる。
- ・海の生き物に関心を持ち、進んで調べることができる。

3. 単元の指導計画(全10時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海で生活している魚について話し合う ・知っている魚の名前、食べたことのある魚について友だちと話し合う。 ・給食や家で食べているちりめんじゃこについて話し合う。 ・ちりめんじゃこに小さな生き物が混ざっていることを知る。	
2	2・3	○ちりめんmonster探しをする ・ちりめんじゃこの種類について知る。 ・ちりめんmonsterについて知る。 ・ちりめんmonsterを「魚」、「エビ・カニ」、「タコ・イカ」の仲間に分ける。 ・仲間分けしたちりめんmonsterをボンドでワークシートに貼る。	☆TEAM GASAの河原さん、前田さんからちりめんmonsterについて話を聞く。 ○写真をよく見て形や色の違いに気づくように声をかける。

3	4 (本時)	<p>○ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちりめんモンスターでの活動を振り返る。 ・見つけたことやわかったこと、知りたいことなどを書く。 ・活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。 ・ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。 	○ちりめんモンスターでの活動から自分の考えを持つように伝える。
4	5~9	<p>○ちりめんモンスター新聞や図鑑をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのワークシート等を活用する。 ・紹介したいモンスターについてさらに詳しく調べ、わかりやすくまとめる。 	○紹介したい内容に応じて、ワークシートや調べた内容から新聞や図鑑をつくらせる。
5	10	<p>○作った新聞や図鑑を見せ合い、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちりめんモンスターについて調べたことを発表し合おう。 	○自分のグループや他のグループが発表したところからそれぞれの発表内容の良い点を考えさせる。

4. 他教科等との関連

○生活科「いきものをさがそう」

- ・校区の海に行き、生息している海の生き物について知る。

○図工科「工作」

- ・ちりめんモンスターの活動を通じて、形の特徴を捉えて、海の生き物を粘土で作成することができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

ちりめんモンスター探して感じたことを話し合い、他の人に伝える方法を考える。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準
10	○ちりめんモンスターでの活動を振り返る。	○楽しかったことや思ったことを出し合わせる。	
10	○見つけたことやわかったこと、知りたいことなどを書く。	○ワークシートの活用	○ちりめんモンスターで学んだ知識をまとめることができる。 【知識・技能】

10	○活動のことをまとめ、友だちに紹介したいことを話し合う。 ・カタクチイワシとマイワシの違いについて。 ・タコとイカのすみかの違いについて。 ・季節によって変わる、獲れる魚について。	○ワークシートや生き物マップを参考に他の人に教えたことや伝えたいことを考えられるようにする。	○活動のことをまとめたことで、自分の考えや思いを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】
10	☆紹介する方法を考える。 ・新聞にして紹介する。 ・図鑑にして紹介する。		○伝えたい内容をどうすれば伝わるのか、紹介する方法を工夫できる。 【思考力、判断力、表現力等】
5	○本日の活動をふりかえる。	○ふりかえりワークシートの活用。	

6. 成果と課題

- ・チリメンモンスターのことを知らない子が多くおり、実際にふれることで興味を持ってとりくむことができた。
- ・海の生き物がたくさんいることを実感することができた。
- ・チリメンモンスターの仲間分けをすることで、自然に海の生き物のことをくわしく学ぶことができた。また、海の生き物の体のつくりを自然と学ぶことができた。
- ・同じイワシでも様々な種類があったり、特徴の違いがあったりすることに子どもたちは驚いていた。実際の物に触れることで、その後の調べ学習や新聞・図鑑づくりにも意欲的にとりくむことができた。
- ・1、2年生は同じ「チリメンモンスター探し」の取組をしているので、来年度は学年間でどのような違いを出していくのか、学習内容を検討していきたい。

3年 単元名

「アマモについてわかったことを伝えよう ～アマモってすごいよ!～」

(海を知る・海を守る)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

- アマモについて知り、アマモを育てることに関心をもつ。
- アマモの苗床づくり、海藻おしば体験、観察活動を通じて、地域の海を大切にしようとする気持ちをもつ。
- アマモについて興味をもったことについて調べ、言語化する。
- アマモについてまとめたことを2年生に伝える。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

- ・西鳥取の海に生息するアマモについて、上級生からの引継ぎや講師の先生からの話、また、調べ学習を通して学ぶ。
- ・アマモの苗床の成長記録や、本やインターネットを活用しての調べ学習から、観察の手順、まとめる方法を身につける。

○思考力、判断力、表現力等

- ・アマモの苗床づくりや海藻おしば体験などの活動を行う際、より深く探求するための必要な手立てを考える。
- ・アマモの苗床づくりや海藻おしば体験などを通して、もっと探求したいと感じたテーマについて調べ、2年生にわかりやすく伝えるための方法を工夫し、表現する。

○学びに向かう力、人間性等

- ・地域の海への興味・関心を高め、より深く学ぼうとする。
- ・お互いに学んだことや感じたことを伝え合うことで、これからも共に地域の海を守っていこうとする。

3. 単元の指導計画(全11時間)

次	時	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○アマモについて知ろう ・4年生からアマモについての活動報告を聞く。	○報告内容をワークシートにメモをとらせる。
2	2	○アマモの種をまこう ・人工海水をつくる。 ・種を植えるときの注意点を聞き、ポットに土を入れ、その中に種を植える。 ・人工海水の中に沈める。	☆チームガサの河原さんからアマモの種の植え方を教わる。 ○アマモとはどのような海草であるのかを知らせる。
	3	○アマモの育ちを観察しよう ・アマモが芽を出す様子や、成長する様子を記録する。(記録用紙・写真)	○アマモがどのように成長していくのかを継続して観察させる。
3	4	○海藻おしば体験をする。 ・海藻と海草の違いについて知る。 ・海藻の色の特徴を生かして、海藻おしばを制作する。	○海藻の色の違いについて注目させる。 ○海藻おしば体験をすることで、海の生き物や地域の海への関心を高めさせる。
4	5~10	○アマモについて調べたことをまとめよう ・アマモについてもっと知りたいテーマは何かを考える。 ・本やタブレットを使って調べる。 ・調べてわかったことを言語化する。 (新聞・スライド・劇など)	○2年生にどうすれば分かりやすく伝えることができるかを考え、工夫させる。 ○国語科「わたしたちの学校じまん」と連携して取り組ませる。
5	11 (本時)	○アマモについてまとめたことを伝えよう ・2年生に3年生の教室に来てもらい、まとめたことを伝える。	○相手を意識し、声の出し方やスピード、内容に気を配るよう助言する。

4. 他教科との関連

○理科「植物の育ちとつくり」「植物の一生」

・海草と海藻のちがいや、花を咲かせて命をつなぐという陸の植物との共通点について意識させる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・アマモについてまとめたことを伝える方法を工夫し、わかりやすく2年生に伝える。

(2) 本時の指導計画

時間 (分)	学 習 活 動 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点(○)	評価規準 (評価方法)
2	○めあてを確認する ㊦アマモについてわかったことを2年生にわかりやすく伝えよう		
3	○伝え方で気をつけることを確認する ・声の大きさ、速さ ・資料の見せ方	○2年生にわかりやすく伝えるために、声の大きさ・速さ・資料の見せ方に気を配るよう助言する。	
20	○まとめたことを発表する ・アマモの観察記録や、海藻おしばの作品、調べ学習の内容をまとめた物を発表する。 ・新聞、スライド、劇	○伝える相手を意識させる。	○アマモについて調べたことをまとめることができる。 【知識・技能】 (新聞・スライド・劇) ○2年生にわかりやすく伝えるための方法を工夫し、表現できている。 【思考力、判断力、表現力等】(発表)
10	○感想を交流し合う ・2年生に感じたことや初めて知ったことなどを伝えてもらう。 ・質問に答える。	○お互いに話しやすい雰囲気をつくるよう配慮する。	○地域の海への興味・関心を高め、より深く学ぼうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】(ワークシート・発表)
10	○アマモについてわかったことを振り返る ・わかったことをまとめる。 ・海の学習でこれからどんなことを学習していきたいかを考える。	○これまで1年間の海洋教育を振り返らせ、これからどのようにそれを生かしていきたいかを考えさせる。	

6. 成果と課題

- ・4年生からアマモのこについて教えてもらい、4年生でする活動を伝えてもらうことで、来年度の取組を楽しみにしている子が多くいた。学年をまたがってする活動になるので、今後の見通しを持って学習をすることができた。
- ・実際に自分たちで育てるという活動をする中で、アマモという植物について興味を持ってとりくむことができた。調べ学習でもタブレットや図鑑を活用をして楽しみながら調べることができた。
- ・海藻と、海草のどちらも実物に触れて学ぶことができたので、つくりの違いや特徴についてくわしく学ぶことができた。2年生への報告会では、その違いを意識して伝える子どもが多くいた。
- ・アマモを育てる水槽を学校の玄関に設置することで、他の学年や、地域の人たちにも関心を持ってもらうことができた。ただ、今年度のアマモの発育があまり良くなかったので、早い段階から発育不良の原因や、よく成長するための条件を調べる活動をすれば新たな学びにつながったように思う。

4年 単元名

「アマモの大切さを伝えよう」「アマモ場の生き物を守ろう」 (海を知る・海を守る)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

- アマモを育てることで、海を育むことの大切さを知る。
- 生き物の住処の重要性や環境保全について学ぶ。
- 1年間おこなってきたアマモ活動を下級生に引き継ぐ。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

- ・西鳥取の海に生息するアマモや浜辺の生物の生態について、上級生からの引継ぎや講師の先生からの話、調べ学習を通じて学ぶ。
- ・アマモの苗床の成長記録や浜辺の生き物調査から、観察や調べ学習の手順やまとめ方について身に付ける。
- ・海洋ゴミの特徴や種類、生き物に与える影響について学ぶ。

○思考力、判断力、表現力等

- ・アマモの育成や生き物調査などそれぞれの活動を行う際、より深く探求するために必要な手立てを考える。
- ・アマモの育成や清掃活動、生き物調査を通じて知ったことや思ったことを他者に伝えるために、何を主たるテーマとするのか、また、必要な情報を精査し、より分かりやすく伝えるために工夫して表現する。
- ・西鳥取の海を守るために自分たちができることについて、多くの人に伝える方法を考えることができる。

○学びに向かう力、人間性等

- ・西鳥取の海について知識を得る中で興味・関心を高め、より深く学ぼうとする。
- ・お互いに学んだことや思ったことを表現しあい交流することで、共に協力して環境保全学習に取り組もうとする。

3.単元の指導計画(全21時間)

次	時	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆外部連携
1	1・2	<p>○アマモについて学んだことをふりかえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪湾の今と昔 ・アマモの役割 ・アマモ場を守ることの大切さ <p>○アマモを植える際の注意点や、アマモについてさらに知りたいことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマモ移植について岩井さんに教えてもらいたいこと考え、クラスでまとめる。 	<p>○パワーポイントの資料をつかって、これまでの活動をふりかえらせる。</p> <p>○緊急事態宣言でアマモ移植に行けないので、(株)ミクニヤ岩井氏への質問を考えさせる。</p>
2	3	<p>○アマモの植える様子を観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオでアマモを植える様子を見る。 ・植える時の注意点や実際に生えているアマモの様子を見る。 	<p>☆(株)ミクニヤ岩井氏からアマモの植え方を聞く。</p> <p>○教師が講師の岩井氏とともに、子どもたちが育てたアマモを西鳥取の海に植えに行く。その際に植えている様子をビデオで撮影し、子どもたちに見せる。</p>
	4	<p>○アマモ場の大切さを伝えるためにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G20や GIJ の発表の様子を見て、自分たちが伝えたいことについて考える。 ・ポスターや新聞、パンフレットなど、伝え方について考える。 ・アマモ場で採った生き物をみんなで飼育し、他の学年の子にも興味を持ってもらう。 	<p>○アマモを植えると同時に、アマモ場の生き物を採取させ、学校で飼育させる。</p>
	5~7	<p>○アマモ場にいる生き物のポスターを作ろう。</p>	<p>○生き物の特徴、エサ、住処などについてまとめさせる。</p>

R3年度はアマモの種が不作で活動ができませんでした。

3	8・9	<p>○アマモの種を採ろう。</p> <p>○アマモ場の生き物にふれよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマモの花枝を採取する。 ・アマモの花枝を観察し、どんなところに育っているかを知る。 ・地引網を体験する。 ・浜辺にどんな生き物がいるのか観察する。 	<p>○海に引らし、アマモの花枝採取と生き物調査を行わせる。</p> <p>☆(株)シニヤ岩井氏に講師依頼</p> <p>※準備物(講師が持参)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防水デジタルカメラ(多数) ・振り返りワークシート
	10 1	<p>○アマモの種子を選別して、3年生につなげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前採取した花枝からとった種をピンセットで一つずつ取り出す。 ・白いものや赤いものなど、種の違いを知る。 	<p>☆(株)シニヤ岩井氏に講師依頼</p> <p>※準備物(種子は講師が持参)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取分け用大皿・匙を各12 ・個人用小皿・ピンセットを各30 ・種入れ用大皿を12 ・振り返りワークシート
4	10 11・12 13~15	<p>○アマモ場を増やす以外に、海の環境を守る方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生が活動した海岸の様子を写真で見る。 ・ごみがたくさん落ちてあることに気づき、ごみが生き物の生態に与える影響について考える。 ・海岸のごみの様子を実際に見に行く <p>○海洋ゴミ調査に出かけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸のごみ拾いに行く。 ・海岸にどんなごみが落ちているかを調べる。 ・大きいごみや危険なごみは写真で撮り、小さいゴミは拾う。 ・ごみを種類ごとに分けて一部を持ち帰る。 <p>○海洋ゴミについてみんなで調べよう。(3つのグループに分かれる)</p> <p>A プラスチック・プラスチックごみの特徴は何か?</p> <p>B プラスチックごみはどこからくるのか? プラスチックごみはどうなるのか?</p> <p>C 海洋ゴミが生き物に与える影響は何か?</p>	<p>○アマモの種子が不作で選別ができなかったため、他に海を守る方法がないかを考えさせる。</p> <p>☆阪南市資源対策課の方に海洋ごみの回収に来てもらう。</p> <p>※準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍手 ・ごみ袋 ・長袖長ズボンの服装 <p>○調べたい項目ごとにグループをつくって調べさせる。</p> <p>○タブレットや図書館の本を活用させる。</p> <p>○調べたことを、タブレットの「Google スライド」を使ってまとめさせる。</p>

	16 (本時)	<p>○海の生き物を守るために自分たちができていることを考えよう。</p> <p>・海洋ごみについて調べたことを発表し合おう。</p> <p>・海の生き物を守るために自分たちがとりくめることをみんなで考えよう。</p>	<p>○、タブレットの「Google スライド」を使って発表させる。</p> <p>○これまで体験したこと・調べたこと・他のグループが発表したことから自分の考えを持つように伝える。</p>
5	17～ 21	<p>○1年間学んできたことをまとめて、わかりやすく伝えよう。</p> <p>・つけていたアマモの観察記録や海の生き物ポスター、海洋ごみ調べのワークシート等を活用する。</p> <p>・観察記録や調べ学習の内容をまとめる。</p> <p>・生き物調査で観察した生き物についてさらにくわしく調べ、わかりやすくまとめる。</p> <p>※調べ学習は総合で、作成は国語で行う。</p> <p>○後輩に引き継ぐ。</p> <p>・3年生に活動を紹介し、引き継ぐ。</p>	<p>○アマモや浜辺の生き物、海洋ごみについて、それぞれテーマを決めて、伝えたい内容に応じて観察記録や調べた内容からパンフレットを作らせる。</p> <p>○紹介する際原稿も作成させる。</p>

4. 他教科等との関連

○社会科「下水のゆくえ」「ごみのしまつと活用」

- ・下水処理場のしくみを学ぶことで、現在の大阪湾がどのような環境になっているかをくわしく知る。
- ・生き物にとってすみやすい海の環境とはどのようなものかを考える。
- ・ごみ問題の現状を知り、ごみを減らすための取り組みについて考える。
- ・さまざまな種類のごみの処理方法について知る。

○理科「地面を流れる水のゆくえ」「水のすがたとゆくえ」

- ・水が蒸発して水蒸気になったり、冷えて再び水になったりすることを学び、水が循環していることを学ぶ。
- 山・川・海というように水が循環している中で、山の栄養が海に流れていることも意識させる。

○国語科

- ・「新聞を作ろう」：海岸の清掃活動や清掃工場の見学を通じて、ゴミ問題についてそれぞれが関心を持ったテーマで新聞を作成する。
- ・「パンフレットを作ろう」：西鳥取の海について紹介するために、アマモや海辺の生き物についてパンフレットを作成する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

・海洋ごみから海の生き物を守るための方法を考え、周りの友だちに伝えることができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価基準
15	<p>○海洋ごみについて調べたことを発表しよう。</p> <p>3つのグループ×5分以内</p> <p>A プラスチック・プラスチックごみの特徴は何か？</p> <p>B プラスチックごみはどこからくるのか？ プラスチックごみはどうなるのか？</p> <p>C 海洋ゴミが生き物に与える影響は何か？</p>	<p>○調べたことを、簡潔にまとめて発表できるようにする。 (キーワード、写真の活用)</p> <p>○タブレットの「Google スライド」を利用して発表させる。 (プロジェクターの用意)</p>	<p>○海洋ごみについて調べた知識をまとめることができる。 【知識・技能】</p> <p>○伝えたい内容をどうすればより伝わるのか、見出しや構成、文章表現で工夫できる。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
20	<p>☆海の生き物を守るために自分たちがどうすればよいかを考えて伝えよう。</p> <p>・海岸のごみ拾いを定期的におこなう。</p> <p>・プラスチックの製品をできるだけ使わないようにする。</p> <p>・自分たちが調べたことを、多くの人に知らせる。</p> <p>・ポイ捨てをしないようにする。</p>	<p>○自分たちが調べたこと、他の班が発表したことをもとに自分たちができることをまず自分で考える。(5分程) (付箋の活用)</p> <p>○自分の意見をまとめてから、グループで交流する。(KJ法)</p> <p>○各グループで出た意見をまとめ、グループごとに発表する。</p>	<p>○海洋ごみについて調べたことから、自分の考えや思いを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】</p>

		<p>○これまで自分が体験したこと、友だちの意見を聞いて感じたことから、理由をしっかりと考えて発表するように伝える。</p> <p>(発表の型の用意)</p>	
5	<p>○海の生き物を守るために、クラスのみなどでとりくむことを考えよう。</p> <p>・ポスター、発表資料などをつくり児童集会などで知らせる。</p> <p>・お家の人用に手紙をつくる。</p> <p>・毎月1回は海岸のごみ拾いに行く。</p>	<p>○自分たちが無理なく、継続してとりくめる内容を意識させる。</p> <p>○自分たちだけでなく、周りの人達と共にできることを意識させる。</p>	<p>○海洋ごみを少しでも減らすために自分たちがとりくむことを考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p>
5	<p>○本日の活動をふりかえよう。</p>	<p>○ふりかえりワークシートの活用。</p>	

6. 成果と課題

- ・アマモの種の不作で種子選別ができないというアクシデントを生かして、代わりに自分たちが西鳥取の海を守るために何ができるかということを考えて、「海洋ごみ調査」という新しい実践にとりくむことができた。自分たちで考えた取組なので、意欲的にごみを拾って種類を調べたり、海洋ゴミの影響についてくわしく調べたり、多くの人に知らせようとする強い気持ちを持つことができた。
- ・学校の玄関でアマモ場の生き物飼育をすることで、他学年の子どもたちや、保護者、地域の人に西鳥取の海について関心を持ってもらうことができた。ただ、海水魚を飼うのが難しく、多くの生き物を死なせてしまうことがあったので、海水魚の飼い方についてもっとくわしく調べたり、詳しい人に教えてもらったりしてできるだけ長い期間飼育できるようにしていきたい。
- ・「海洋ごみ調査」で多くのごみを拾ってきたが、処理の仕方に困った。最終、教師側で分別して処分したが、市とも連携して処理してもらえるように働きかけていきたい。

5年 単元名 「西鳥の漁港でのようすを体験しよう」

(海を利用する・海を守る・海を伝える)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

わが校のすぐそばにある西鳥取漁港で行われているワカメの養殖に携わることで、養殖漁業の工夫や課題を学び、これからも持続的に養殖漁業が行われていくにはどうすればよいのかを考えようとする態度を養う。

漁港見学を行うことで、西鳥取漁港ではどのような漁法で漁業がおこなわれているかを知る。また、漁港で働く漁師の方の話をまとめ、苦労や課題を解決するためにはどうすればよいか表現するのに必要な手法を身につける。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

西鳥取漁港の漁業について、漁師の方・講師の先生からの話、また調べ学習を通じて学ぶ。

ワカメの養殖の仕方を学び、自分たちで行ってみる。また、収穫したワカメを用いて調理実習を行い、郷土特有のワカメ料理について学ぶ。

○思考力・判断力・表現力等

ワカメの養殖体験や調理実習といった活動を行う際、より深く探求するために必要な手立てを考える。

ワカメの養殖や漁港見学から学んだことや知ったことをうまく伝えるためにはどうすればよいのかをグループで模索し、工夫して表現する。

○学びに向かう力、人間性等

グループ発表の場で感じたこと、思ったことを表現しあい、交流することで、協力して海の環境を守ることに取り組もうとする態度を育てる。

3. 単元の指導計画（全18時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	水産業について知る(社会科) ○わたしたちの食生活と水産物について学ぶ。 ・食卓に並ぶ水産物の量はどれほどなのかを知る。	

	2	○日本の周りの漁場について学ぶ。 ・日本を取り巻く海流には暖流・寒流の二種類があり、豊富な種類の水産物が獲れる恵まれた漁場であることを知る。	・大阪湾のようすについても触れておく。
	3	○沖合漁業について学ぶ。 ・沖合漁業でとれる水産物や漁法(まきあみ漁等)について知る。	
	4	○漁港のようすについて学ぶ。 ・漁港に併設されている施設の役割を知る。 ・水揚げされてから各家庭に届くまでの過程を知り、鮮度を保つための工夫がなされていることを知る。	・西鳥取漁港のようすについて、想像させておく。 ☆岩井さんのお話
	5	○養殖業について学ぶ ・のりの養殖がさかんな地域について知る。	・前年度の「のりすき体験」でのお話と関連付けて、想像しやすくする。
	6	○養殖業の課題について学ぶ。 ・養殖業と密接にかかわるのは、海の環境だということに着目し、これからも継続して養殖業を続けていくにはどうすればよいか考える。	
2	7・8	○漁港見学に行く。 ・西鳥取漁港に行き、そこで働く漁師の方のお話を聞く。	・ワークシートを準備し、聞いたことのメモを取らせるようにする。 ☆岩井さんのお話・西鳥取漁港の漁師さんのお話
	9	・聞いたことの振り返りから、いくつかテーマを決め、新聞に書く。	
	10	・書いた新聞をグループで発表する。	
3	11	○ワカメの養殖を体験する。 ・西鳥取漁港に行き、ワカメの養殖についてのお話を伺う。 ・漁師の方々のご指導の下、ワカメの種付けを体験する。	・ワークシートを準備し、種付けから収穫まで行った感想や漁師の方や岩井さんのお話を聞いて思ったこと・感じたことを記入させる。 ☆岩井さんのお話・西鳥取漁港の漁師さんのお話

	12~15 15(本時) 16	<p>○ワカメの今年度の収穫量を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水温や天気、海中の養分濃度などのデータをもとに、今年度のワカメの収穫量を予想する。 ・昨年度、一昨年度の収穫量と比べる。 ・調べた内容をグループで発表し交流する。 <p>・再び西鳥取漁港に行き、自分たちが種付けをしたワカメを収穫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人~5人のグループで調べさせる。 ・タブレットを使って調べさせ、Google スライドでまとめさせる。
4	17・18	<p>○収穫したワカメを使って、みそしるを作る。(家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで種付けをして、収穫したワカメを調理実習の具材に使い、味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫したワカメの味の感想や、食卓に届くまでの様々な人々の努力や苦労に対して感じたこと・思ったことを、ワークシートに記入する。

第4次は、コロナ禍の為実施できず

4. 他教科等との関連

○社会科

- ・「水産業のさかんな地域」

漁港見学に行く前に、漁業の種類や漁船のようす、漁港のようすを学習しておき、漁港見学の際に事前学習とリンクさせて進めていく。

○家庭科

- ・「食べて元気に!ご飯とみそしる」

自分たちで養殖したワカメを具材にして味噌汁をすることにより、手間をかけて食材を届けている水産業の方への感謝の気持ちを持ち、海の環境保全に努めようとする態度を育てる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

グループで考えたワカメの発育条件や今年の収穫量の予想を発表し交流する。

時間	児童の活動	指導上の留意点	評価規準・準備物
5	○発表を聞く際の注意点を聞く。	○スライドに載せていない事でも発表してもよいこと、難しい言葉は説明すること、聞く側は、発表後感想や疑問に思ったことを発表するように伝える。	・ワークシート

25	○予想したことを発表する。 ・グループで考え予想したことを Google スライドを使って発表する。	○発育に関わる条件をはっきりさせ、今年の収穫量の予想をしっかりと伝えさせる。 ○自分たちの考えと同じところ違うところを意識して聞くようにさせる。	◎根拠となる資料を示して、説得力のある説明ができる。 【知識・技能】 ◎資料を基に伝え方を工夫し、表現できる。 【思考力・判断力・表現力等】
10	○感想や疑問に思うことを伝える。	○良いところや疑問に思うところ共感できるところなど、発表させる。	◎自分の意見を持ち、発言できる。 【学びに向かう力、人間性等】
5	○ふり返りをワークシートに記入する。	○発表の内容や資料の示し方などをふり返らせる。	◎他のグループとの交流を踏まえ、改めて自分の意見を持つことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

6. 成果と課題

- ・漁港見学後、自分の興味を持った漁法や岩井さんの話の中で特に興味をもったことについて漁業新聞に表すことができた。感想の中で「漁業の大変さがよく分かった。」や「海をよごさないようにしたい。」などの思いをもつ児童が多かった。
- ・ワカメの育ち方について個人で調べ、それをグループで交流しワカメがよく育つ条件をまとめることができた。ふり返りでは、友だちの意見を聞いて自分の考えを深められたと答えた児童が多かった。
- ・発表に向けて、グループで協力しながら資料を集め、今年度の収穫量を予想しスライドにまとめ発表することができた。前もって予想したことにより、収穫当日はワカメをしっかり観察し、ワカメの育ちに関係することを岩井さんに質問し自分たちの考えを確かめることができた。
- ・ワカメの収穫量の予想のところ、昨年や 2 年前の状況と比べるときに資料を探して判断することはある程度できていたが、発表において資料を整理して示し、説得力のある表現が上手くできていないところもあった。説得力のある表現にするために表にしたり、グラフを使ったりするなど表現の仕方をもっと工夫できるように指導していくのが今後の課題である。

6年 単元名

「海洋教育報告会～自分たちが学んだことを、多くの人に伝えよう～」

(海を利用する・海を守る・海を伝える)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

- ・これまでに行ってきた活動をまとめ、これからの海の環境をまもっていくために自分たちに何ができるかを考え、他の学校や学年に発信する。
- ・聞き書きで学んだことを活かし、他の学年に海洋教育でとりくんだことをインタビューし、聞き取った内容を相手に合わせて理解しやすいようにまとめる。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

○思考力、判断力、表現力等

身近な環境問題や環境保全活動に関心を持ち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

○学びに向かう力、人間性等

友だちと協力して課題解決に取り組んだり、環境保全のために自分でできることに取り組んだりすることを通して、西鳥取の海を守ろうという強い気持ちを持ち、自分の実践に生かしている。

3. 単元の指導計画(全11時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○「阪南市実践報告会」に向けて、これまで自分たちが学習してきたことをふりかえよう。	○これまでの学習内容が視覚的に確認できるよう、昨年度までの活動写真などを集め、提示する。 ○これまで学んできたことで、自分たちが発表したいことを話し合わせる。 ○どのようなグループで、誰(実践報告会に参加する学校以外)に発表

			するかを話し合わせる。
2	2 3	<p>○学校で取り組んでいることを紹介するため、他の学年にインタビューしよう。</p> <p>インタビューの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つのグループ(1年生～5年生に発表するグループ5つと、実践報告会で発表するグループ1つ)に分かれ、メンバーの中で各学年に分かれて聞きに行く。 ・大休憩に各学年にインタビューをする。 ・「活動の内容」、「感想」、「これからの思い」について聞く。 	<p>○インタビューで多くの内容を聞けるよう、各学年に事前にインタビュー内容を知らせておく。(ワークシートの活用)</p> <p>○インタビューする際に、「聞き書き学習」で学んだ聞き方やメモの取り方を活かせるよう、事前に確認する。</p> <p>○各学年に応じた聞き方ができるように意識させる。</p>
3	4 5～7	<p>○インタビューしてきた内容をもとに、発表資料をつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で聞いてきたことをもう一度ふりかえり、どの内容を発表に入れるかを考える ・6つのグループにもどり、それぞれが分担して発表資料をつくる。(Google Jamboard) 	<p>○各学年に応じた、わかりやすい内容になるように意識させる。</p> <p>○Google Jamboardで資料をつくる際には、文字数は必要最低限にし、イラストや写真を入れて見やすくなるように意識させる。</p>
4	8 (本時)	<p>○発表内容を交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで発表を聞き合い、よかった点、改善点などを交流し合う。 ・交流後、他のグループからもらった意見を参考にし、発表資料や内容を修正する。 	<p>○とりくんだ内容よりも、とりくんだ感想や、どんな思いをもったかが伝わるように意識させる。</p>
5	9	<p>○海洋教育報告会の発表をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～5年へ ・海洋教育実践報告会へ <p>(ビデオ撮影し、撮影した動画を実践報告会の Google Classroom に上げる。)</p>	<p>○聞いている相手のことを考え、大きな声ではっきりと伝えることを意識させる。</p>
6	10 11	<p>○他の学校のとりくみを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞小学校、上荘小学校、下荘小学校の報告を Google Classroom で視聴する。(教師用のタブレット使用) ・コメント(感じたことや、自分たちのとりくみと比べて思ったことなど)を Google Form で書き込む。(各自児童用のタブレット使用) 	<p>○コメントを書き込む際は、相手のことを考えて、内容や表現の仕方に気を付けさせる。</p>

4. 他教科等との関連

○国語科「聞いて考えを深めよう」

- ・話し手の目的や、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。
 - ・意見を述べあったり、それを聞いたりして自分の考えをまとめる。
- 「思い出を言葉に」
- ・6年間の中で印象に残っている出来事を詳しく思い出し、自分にとっての意味や価値などを考えて伝えたいことを書きだす。
 - ・文章全体の構成や書きだし方などに着目して、文や文章を整える。

○理科「自然とともに生きる」

- ・6年間で学んだ海洋教育を振り返り、自分が西鳥取の海を守るためにこれからとりくむことを考える。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・各学年、他校に向けての発表のよかったところや改善点を見つけて、伝えることができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準
10	○全体で本時のめあてと学習の活動を確認 ・めあて「グループで発表を聞き合い、良かった点、改善点などを交流しよう。」 ・6班を2つのグループに分ける。 (多目的室 1年・2年・3年グループ) (6年1組教室 4年・5年・他校グループ)	○発表内容のメモをするポイントを確認する。 ・文字の大きさ ・話し方 ・学年にあった文章の内容 ・写真やデザイン ・各学年の思い ・6年生の下級生へ対しての思い	
25	○グループごとに発表を行う。聞き手は、メモをする。 ・発表後、2つのグループは良かった点や改善点を伝える。 ○それぞれのグループで発表資料や内容を修正する。	○とりくんだ内容よりも、とりくんだ感想や、どんな思いをもったかが伝わるように意識させる。	○他のグループの発表内容の良い点、改善点を見つけて伝えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】
10	○修正したグループは、発表の練習を行う。		○他のグループからのアドバイスをもとに、伝わりやすい内容にするために修

			正を行う。 【思考力・判断力・表現力 等】
--	--	--	-----------------------------

6. 成果と課題

○成果

- ・3人の漁師さんから魚を捕るための方法や漁師の仕事の内容、西鳥の海についてのお話を聞いた。また、話の中で児童が疑問に思ったことは、すぐに質問をして応えていただけたので、より深く知ることができた。
- ・6年間で体験した海洋教育の活動内容と今年度1年生から5年生までが体験した海洋教育について他校と他学年に向けて紹介した。そのために、他学年に今年度の取り組みについてインタビューを行った。インタビューの内容は、①どのような活動に取り組みましたか。②活動の感想を教えてください。③これからの思いを教えてください。の3つの項目について質問をした。
- ・インタビューの内容と6年生のこれまでの活動から、紹介したいことをグループに分かれて話し合いをして、タブレットを使って紹介のための資料作りをした。「西鳥取小学校の活動の良さは何か。」「1年生に伝えるためには、どうすればいいか。」「写真や文字の大きさは、どうすればいいか。」などを話し合うことができた。相手にわかりやすく伝えることを目標に協力して、取り組むことができた。

○課題

- ・今年度は6年生がした海洋教育の体験活動が少なく、自分の考えや思いを持つという機会が少なかった。
- ・児童は、他学年にインタビューをしてこたえてもらった内容について、まとめているときにもった疑問があっても再びインタビューをして疑問を解決する時間を取ることができなかった。

令和3年度 下荘小学校 海洋教育全体計画

テーマ		アマモから繋がる大阪湾再生											
海に親しむ		海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童を育成する。											
海を知る		海の自然や資源、海と人々や社会との深い関わりについて関心をもち、進んで調べようとする児童を育てる。											
海を守る		海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童を育成する。											
海を利用する		水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人の結びつきについて理解し、それらを積極的に利用することの大切さを理解できる児童を育成する。											
テーマ	学年	1 学期			2 学期			3 学期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
海に親しむ	1年		6月22日(火)③④ 海遊び	7月2日(木) 生き物探し(里海)	7月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月 生活科「季節による変化 を見つけよう」 9月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)						
	2年		6月23日(水)③④ 海遊び	7月3日(金) 生き物探し(里海) 図工「石ころアート」	7月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)						
海を知る	3年				7月22日(月) 岩井さんの話	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月5日(月)③④海 遊び・石集め(里海) 図工「石ころアート」					2月14日(月)③④ 海藻おしぼり	
	4年	社会「ごみのしり」 「水のゆくえ」		6月22日(火)③④ 海藻拾い(里海公園) 総合「節水活動」	総合「節水活動」 社会「津波による災害」	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)		11月26日(金)⑤⑥ クリスマスモンスター			2月14日(月)③④ 海藻おしぼり 理科「水のすがた」	
海を守る	5年		アマモ活動 5月7日(金)③ アマモ話 5月13日(木) 外部講師が代わりに 植えた。	アマモ活動 25日(金)⑤⑥ 花枝取り・生き物観察 (わだいらっか)	臨海学校「海辺遊び」 「カヌー」(青少年海洋セ ンター)	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)	校外学習「栽培漁業」 (水産技術センター)	11月26日(金)⑤⑥ クリスマスモンスター	「ワカメ苗つけ」 (下荘漁港)		2月14日(月)⑤⑥ ワカメ収穫(下荘漁港)	●合同実践発表会 オンライン交流
	6年	理科「環境」 二酸化炭素と環境		理科「植物のつくりには たらき」	理科「生物どうしのつな がり」	8月 図画工作コンクール 「海とまかな」応募	9月27日(月)②③④海 遊び・生き物見つけ・増引 網体験(里海)	校外学習「海遊び」(青 少年海洋センター)		理科「海洋ゴミ」	社会 「世界の中の日本」		

1年 単元名 海のいきものに出会おう

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

- ・地引網体験を通して、自分たちの町の海岸にはどんな生き物が住んでいるのかを知る。
- ・さまざまな海の生き物に触れることで、命の尊さやその生き物がくらししていくために環境を守っていくことの大切さを知る。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

海にはたくさんの生き物が生息していることに気づくとともに、生き物の命はどれも大切であることに気づく。

○思考力、判断力、表現力等

生き物の育つ場所や特性について興味・関心をもって働きかけるとともに、生き物への接し方について考えたり工夫したり振り返ったりし、それを素直に表現している。

○学びに向かう力、人間性等

生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命のあるものとして、大切にしようとしている。

3. 単元の指導計画（全21時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1～3	○生き物に会いにいこう ・これまでの生き物との出会いの経験を話す。 ・海の生き物について、興味・関心のあることを調べる。 ・生き物に会いに行く。	○家で飼っている生き物だけでなく、自然の中でみつけた生き物についても触れさせる。 ○海はどんな自然なのか、イメージをもたせる。
	4・5	○生き物と触れ合おう ・校区の里海公園へ行き、干潟に現れる生き物に触れ、観察をする。	○安全の気をつけて、活動できるようにする。
	6～8	○見つけたことをしょうかいしよう ・見つけたことや感じたことを、はっけんカードにまとめる。 ・学級で発表会をして、交流する。	○感想だけを書くのではなく、形・色・動きなど、細かな観点で書くようにする。

2	9～ 12	○石ころアートをたのしもう ・里海公園で、石ころアートに適した石を拾う。 ・石の形から想像を膨らませて、アートにしたい絵柄を決める。 ・カラーペンで着色し、作品を作る。 ・できた作品を学級で交流する。	○石の形を生かして、様々なイメージを膨らませるようにする。 ○紙とは質感が違うので、着色の際は留意することを伝える。
3	13～ 17	○海のことをもっと知ろう ・海中にはどんな生き物が暮らしているのか、知っていることを話し合う。 ・里海公園で、地元の漁師の方と地引網体験を行う。 ・海中から引き上げられた生き物に実際に触れ、詳しく観察する。	○自分たちの生活は、身近な海やそれにかかわる人々の働きとかかわっていることに気づかせる。 ○目で見ただけでなく、実際に触れさせる。
	18～ 21	○海ではっけんしたことをしょうかいしよう ・地引網体験で出会った生き物について、はっけんカードにまとめる。 ・学級で発表会をして、交流する。 ・海の活動全体の振り返りをする。	○感想だけを書くのではなく、形・色・動きなど、細かな観点で書くようにする。

4. 他教科等との関連

国語：「大きくなった」

生活科：「生きもの だいすき」

道徳：「いのち・しぜん・うつくしいもの」

図工：「みて、さわって、かんじて」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

身近な自然である海から拾った石を使い、その形や特性を生かしながら、楽しんで作品作りを行う。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">石ころのかたちをよく見て、すてきなアートをつくろう。</div>	○何に見えるか、どんな形に似ているかいろいろな角度から見ることを伝える。
30	○カラーペンを使って、石に絵や模様を書く。	○紙よりもインクの乾く速度が遅いので、しっかりと乾かすようにする。
10	○グループで見せ合って、作品の良さを交流する。	○形のおもしろさを生かしているか、色の工夫を感じられるか、よいところ見つけのポイントを伝える。

6. 成果と課題

成果

小学校入学より初めての校外学習であったため、子どもたちは海の自然に高い興味関心をもって活動に取り組んでいた。また、普段写真や動画でしか触れる機会のない自然の生き物を実際に手に取って触れ、観察できたことは、何よりも貴重な経験になったように思う。また、指先ほどの小さな生き物でも、命があり、動き泳ぐ様子を実際に見ることで、命の大切さ、尊さにも気づくことができていた児童の様子もたくさん見られた。

課題

低学年として、初めての海洋学習ではたくさんの生き物にふれ、自然についての理解を深めるに留まったが、次学年以降は、その自然を守る環境保全や環境美化の視点から授業を組み、よりその姿勢を育んでいく必要があると考える。



2年 単元名 わたしたちの町の花

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

わたしたちが暮らす町の特徴・魅力を探ることにより、郷土に愛着を持つ。また、そこで働き、町を支えてくれている人たちを知り、感謝の気持ちを持つ。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。

○思考力、判断力、表現力等

地域の特徴やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

海の近くにある自分たちの町に親しみや愛着を持ち、自然を大切にしようとし、町を支える人々に感謝の気持ちを持つことができる。また、安全に気を付けて生活しようとするすることができる。

3. 単元の指導計画（全15時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1	○町のすてきを教え合おう。 ・町にあるすてきな場所や人、ものを紹介し合う。 ・自分の考えを友だちと交流する。	○ここではまだ「海」に焦点化する必要はなく、児童の生活経験から想起される様々なものを紹介し合う。
	2～4	○町のすてきに会いにいこう 校区の里海で、校外学習をする。 ・海岸で遊ぶ。 ・生き物探しをし、地元の‘魚の先生’に海の生き物のことを教えてもらう。 ・石ころアートで使う石を拾う。	○安全に気を付けて、活動できるように気を付ける。 ○干潮時に活動を行い、より多く生き物に触れることができるようにする。 ○地域の方の話を聞くことにより、さらに海への関心を持たせる。 ○いろいろな形の石があることに気づかせる。 石の表面の違いなどにも着目させる。
	5～8	○海のことをもっと知ろう ・海岸で見聞きしたことをまとめる。 ・図鑑を見て、海の生き物をしらべ、まとめる。	○海岸に行った時の写真を用意し、活用できるようにする。
2	9・10 11～13 (本時)	○もっと知りたい町のすてき ・海岸で見つけた石を使い、石ころアートをする。 ・自分たちの町にある海について知るために、二回目のたんけんに出かける。(本時) 海岸清掃、地引き網体験、魚の観察(漁師さんとの触れ合い)	○石の形を活かして作成させる。 ○多様な生物との触れ合い、海辺での過ごし方の理解、海に関わる人々との触れ合いを通して、海への親しみと理解を深めることができるようにする。 ○自分たちの生活は、身近な海やそれに関わる人々の働きと関わっていることに気づかせる。

		・振り返りをする。	
3	14~15	○学習したことを伝えあおう ・今までの海の活動で気づいた町のすてきにいて、発表し合う。	○生き物・仕事・人々の思いなど、様々な視点の気づきを共有できるよう意図的に支援する。 ○学級全員で振り返りを共有する中で、海が自分たちの生活に密接に関わっているという認識が深められるようにする。 ○自分たちの住む町の海に愛着や親しみを持ち、安全に生活する気持ちを育てる。

4. 他教科等との関連

- 生活科：・動植物の飼育・栽培、生活や出来事の伝え合い
・町たんけん
- 国語科：・身近な出来事や経験したことなどから題材を決め、話したり、聞いたり、書いたりする活動
・図鑑や科学的なことについて書いた本を読む。
- 図工科：・素材の形を活かした造形活動
- 道徳科：・郷土を愛する態度
・自然愛護
- 特別活動：・心身ともに健康で安全な生活態度の形成

5. 本時の展開

(1) 本時の目標 (本時 1 1 ~ 1 3 / 1 5)

町たんけんを通して、自分たちの住む町にある海の素晴らしさに気づくことができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
1 0	○前時までの活動を振り返る。 ・自分たちの住む町にあるすてきな場所、人、ものについて紹介し合った内容を思い出す。 ・海での観察や自分たちが調べたことの記録を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。 「みんなが住んでいる町にある海に行き、そのすてきを発見しよう！」	○前時までの活動の内容を記録に残しておき、想起できるようにする。
8 0	○町たんけん (海) へ行く。 ●海岸清掃をする。 ・自分たちの身近にある海岸にあるゴミを拾うことで、海への意識を高める。 ●地引き網体験をする。	○清掃をしている最中に、なぜこのようなゴミが落ちているのか、声かけを考えてさせる。 ○みんなに支えられていることに気づかせ

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんの船をみたり、事前に網の用意をしてくださったりしていることを知る。 ・実際に体験をする。 <p>●地引き網体験で採れた魚を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんに魚やたこなどを見せてもらう。(魚をさばいでもらい、体の構造も教えてもらう。) ・質問をして、教えてもらう。 ・実際に魚を触り、体感する。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友だちと譲り合い、協力して活動できるようにする。 ○普段見ることのないそのままの形の魚(切り身でない)を観察できる良い機会なので、どの子どももしっかりと見ることができるよう、配慮する。
45	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に戻り、今日の気づきをまとめる。 漁師さんにお礼の手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たんけんを振り返ることができるよう、写真を見せる。 ○どのようなことを自分たちのためにしてくださったのかを考えさせる。

6. 成果と課題

【成果】

自分たちの校区にある海に行つて貴重な体験をさせてもらうことで、普段は遊びに行つたり泳ぎに行つたりしている海に、こんなにもすてきがたくさんあることに気づくことができた。地引き網体験を行い、生きた魚を採り、さばいてもらうことを通して、魚に興味を持ち自分たちの身近にある漁師という職業を知ることができた。また、自分たちの町の魅力を再発見し、そこで働く人々やその地域を支えてくれている人たちに感謝の気持ちをもつことができた。

【課題】

今回の学習を通して、自分たちの町の魅力を感じたり感謝の気持ちをもったりすることができたが、学習が終わるとその意識が低くなるので、継続して学習を行っていく必要がある。子どもたち自身から、海に関してこのような学習がしたい！と自発的に活動に取り組めるよう努力していきたい。



3年 単元名 つながろう!つなげよう!私たちと里海

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

校区にある里海での体験活動や大阪湾に住む生物についての学習を通して、海への親しみや愛着を持つとともに、自然を大切に、環境を守っていくことの大切さを知り、自分たちにできることを実践する気持ちを育む。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

海洋生物や海藻などの性質・育ち方について海の環境と結びつけながら調べることでその関係性を理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

里海での生き物探しや海藻おしば作りなどの体験的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

身近な海を取り巻く環境等について知り、里海に愛着を持ち自然を大切にすることができる。

3. 単元の指導計画(全10時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1,2	○里海で生き物を見つけよう。 ・大阪湾の自然海岸について話を聞く。 ・それぞれ自由に生き物を探し、見つけた生き物を観察する。 ・自分の気に入った形の石を探し、石ころアートに使う石を持ち帰る。	○大阪湾や校区の自然海岸について知り、特ある校区に興味を持たせる。 ○生き物と触れ合うことで生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。 ○安全に留意しながら活動できるように事前指導を十分に行う。
	3 ～ 5	○見つけた石で石ころアートを作ろう。 ・石の形を写し、いろいろなものに見立てて下書きを考える。 ・石に着色したり、物の形に見立てたりして作品を作る。 ・作品鑑賞会を行い、自分の作品を紹介し、友だちの作品のよいところなどについて交流する。	○石の形や色に興味を持ち、物の形に見立てられるようにする。 ○鑑賞会では色や形を生かしたデザインのよさや工夫を共有できるようにする。
2	6,7	○チリメンモンスターを見つけよう ・チリメンモンスターについて知る。 ・カタクチイワシとそれ以外のものを探し、同じ種類ごとに	○地元の海やそこで行われている漁業に関心を持ち取り組めるよう、写真やパネルなどを使って紹介する。

		まとめていく。 ・見つけたチリモンについて調べる。 ・自分が見つけたチリモンで標本カードを作る。 ・チリモンの育つ環境や種類について、ゲストティーチャーから話を聞く。	○外部講師の方から話を聞きながら、見つけたチリモンの名前を、標本一覧を使いながら調べる。
3	8 ～ 10	○海藻おしばを作ろう ・ゲストティーチャーから海藻の育つ環境や種類について聞く。 ・海藻を選び、色や形の組み合わせを考えながら作品を作る。 ・出来上がった作品の鑑賞会を行い、自分の作品を紹介し友達の作品のよいところなどについて交流する。	○見本を見せながら自由に自分が表現したいものをつくるように助言する。 ○作品を押す際に、重なったりしていないか確認する。 ○鑑賞会では色や形を生かしたデザインのよさや工夫を共有できるようにする。

4. 他教科等との関連

- 理科「生き物を探そう」
- 国語「これが私のお気に入り」
- 社会「私たちの住んでいる市のようす」
- 道徳「ふるさといいところさがし」
- 図工「集めて、ならべてマイコレクション」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

ちりめんモンスターを観察し、海の生き物について知る。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	1. ちりめんモンスターについて知る。 ・ちりめんモンスターの採集方法を知る。 ・ちりめんモンスターは、ちりめんじゃこの製造過程で不純物として取り除かれたものであることを知る。	・ちりめんモンスターが、本当に海で生きていたことを印象付ける。
25	2. 各自、ちりめんモンスターを調べ、どのような生物がいるか探す。 ・「ちりもん一覧図鑑」を見て、分類をしながら観察する。	・観察中は、児童の感動に共感し、発言を受け止める。

10	3. ちりめんモンスターには、どのような生物がいるか説明を聞く。 ・疑問に思ったことを質問する。 ・「メガロパ」について知る。 ・いかとたこの見分け方について知る。	・児童の気づきから広げ、解説をしていく。
20	4. ミニ標本カードを作成する ・見つけたちりめんモンスターの中から、いくつかをカードに張り付け、標本カードを製作する。	・海の生き物の多様性に気づかせる。
30	5. 本時の学習内容について振り返る ・ワークシートに感想をまとめる。	・海の環境を守るためにできることを考えさせる。

6. 成果と課題

成果

- ・海にはたくさんの生き物がいることを知り、校区にある里海を大切にしようという思いをもつことができた。
- ・海洋生物について調べる活動を通して、いただいている命を無駄にしないように考える児童が増えた。給食では、出てきた魚を残さず食べようとする姿勢が見られた。

課題

- ・「海をきれいにしたい」「海の生き物を大切にしたい」という思いをもつことはできが、具体的に何をすればいいのかわからない、自分の生活を見返して考えられる児童は少ない。普段の生活から意識できるよう、指導していく必要がある。



4年 単元名 里海の秘密を探そう!!

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

校区の里海で、海遊びを楽しんだり、色々な海藻や生き物に触れたりすることを通し、里海の秘密や魅力を探る。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

海へ入り、ゲストティーチャーの講話などから、里海の手藻や生き物について理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

チリメンモンスターや海藻おしばづくりなどの活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

自分たちの生活が環境に与える影響を意識して、環境を守るために自分たちにできることを考えたり、生活の仕方を見直したりすることができる。

3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1,2	○校区の里海で、校外学習をする。 ・海の生き物に触れる。 ・海藻とりをする。 ・海遊びを楽しむ。 ・振り返り(新たに分かったこと、不思議だと思ったこと、調べてみたいと思ったことなど)	○地域の海に慣れ親しみ、海の生き物や海藻に触れ、様々な気づきや発見を楽しませる。
3	3,4	○チリメンモンスター探し ・ゲストティーチャーの講話 ・チリメンモンスター探し ・振り返り	○大阪湾にはどんな魚が生息しているかを知り、海に興味を持たせる。
4	5,6	○海藻おしばづくり ・海藻おしばに使う海藻を選ぶ ・海藻をはがきにはりつけ、海藻おしばをつくる。 ・振り返り	○海藻の色や形などを吟味し、自分の思いをおしばづくりで表現できるようにする。

4. 他教科等との関連

- 国語科「聞き取りメモのくふう（話し方や聞き方から伝わること）」「アップとルーズで伝える」
- 理科「季節と生き物」
- 社会「下水のゆくえ」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標 色々な魚のチリメンモンスターを見つけ出し、大阪湾に生息している魚のことを知る。

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○チリメンジャコ、チリメンモンスター図鑑で色々な生物を見る。	○図鑑等で大阪湾の生き物を調べ、大阪湾の生態系の豊かさに気付けるようにする。
25	○チリメンモンスター探し ・虫眼鏡、ピンセットなどを使って、チリメンモンスターを探す。 ・図鑑を使い、どのような生物が含まれていたかを調べる、仲間分けをする。	○仲間分けするとき、大まかな種類で分けるのではなく、図鑑を見ながら詳しい分類で分けるようにする。
10	○チリモンてまり寿司作り(チリモン図鑑) ・自分が見つけたチリメンモンスターの標本を作る。	○同じ種類で標本をつくるのではなく、違う種類でつくるように声掛けをする。

6. 成果と課題

成果

- ・チリメンモンスター探しの活動を通して、大阪湾の生態系の豊かさなどを理解することができていた。
- ・活動を通して、里海の生き物や環境を大切にしようという思いが芽生え、自主学ノートにまとめている子がいた。

【子どもの感想より】

- ・私たちの住んでいる地域の海に、こんなにたくさんの魚がいると知ってびっくりした。
- ・チリモンは色々な魚の子どもだけれど、親の魚と全然違う形をしているのもあることが分かった。
- ・ピンセットで何とかつかめるほど小さな魚たちが、広い大阪湾に生きていることを知った。



チリモン探し



チリモン仲間分け



チリモン図鑑

5年 単元名 わたしたちの里海を守ろう

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

校区の里海や大阪湾について調べたり、様々な体験活動を行ったりして、海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかわりがあることを理解し、環境問題を自分事として捉えて課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

○思考力、判断力、表現力等

身近な環境問題や環境保全活動に関心をもち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

○学びに向かう力、人間性等

友だちと協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な里海とのかわりを見直そうとしている。

3. 単元の指導計画(全 25時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1, 2	○外部講師の方から、海に関する話を聞く。 ・大阪湾について ・アマモについて ・校区の里海にいる生き物について	○大阪湾や校区の里海について知り、特色ある校区に興味を持たせる。 ○これからの学習についての見通しを持たせる。
2	3, 4	○校区の里海で、校外学習をする。 ・見つけた生き物について知る。	○生き物と触れ合うことで、生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。
3	5~8	○アマモを育てる。 ・種を選別する。 ・里海に種をまく。 ・苗床づくり、学校で育てて観察する。	○これから育てていくことを伝え、丁寧に作業に取り組ませる。

4	9~ 11	<p>○校外学習で「水産技術センター」に行き、大阪湾に生息する生き物について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産技術センターの役割についてビデオを視聴する。 ・大阪湾に生息する生き物を見たり、触ったりする。 	<p>○海を守るための活動をしていることに気づかせる。</p> <p>○実際に生き物と触れ合い、生物に愛着をもたせる。</p>
5	12~ 16	<p>○海洋ごみなどの環境問題について知り、もっと調べたいことや他の学年に知らせたいことなどを、本やインターネットで調べ、新聞にまとめる。</p>	<p>○表や図などを入れ、読み手が分かりやすいような紙面内容にするように声をかける。</p>
6	17~ 20	<p>○ワカメの種付け、ワカメの収穫、ワカメの味噌汁づくりを行い、地元の海で立派なワカメが育てられることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワカメは、海中の窒素やリン、二酸化炭素を吸収し、ブルーカーボンに役立っていることを知る。 ・収穫してすぐにお味噌汁を作り、海の恵みをいただく。 	<p>○数センチメートルのワカメの種つけを行うことで、ワカメの成長の早さに気づかせる。</p> <p>○地元の海の資源に気づき、愛着をもたせる。</p> <p>○命を頂いていることに感謝させる。</p>
7	21 (本時) ~ 23	<p>○学習したことを各テーマで壁新聞(模造紙)にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞で伝えたいテーマを決める ・役割を分担し、班で協力しながら行う。 ・できた新聞を学級で見合い、改善する。 	<p>○「学習したことを他校の児童に伝えるための新聞」という目的を意識させる。</p> <p>○学校の代表として書くことを伝え、丁寧に作業に取り組ませる。</p>
8	24~ 25	<p>○他校のポスターを見て、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったこと ・もっと詳しく知りたいと思ったこと ・良いなと思ったこと <p>○これから自分たちにできることについて考える。</p>	<p>○自分たちが学習したことと関連させて感想を書かせる。</p> <p>○「わたしたちの里海」を守るために自分ができることを具体的に考えさせる。</p>

4. 他教科等との関連

- 国語科「調べたことを正確に報告しよう」「グラフや表を用いて書こう」「新聞を読もう」
- 社会科「水産業」
- 理科「流れる水の働き」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

今まで学習したことや調べたことを振り返り、相手意識を持って、工夫して紙面にまとめることができる。

【知識・技能】

校区にある里海でのフィールドワークやアマモを育てる活動などを通して、アマモの役割や環境に役立つことなどを理解し、その探究の技能を身につける。

【思考力・判断力・表現力】

里海にアマモを増やす活動や里海の良さを発信するために、写真や図や表などを用いてまとめ、自分なりに考えたことや分かった表現し、紙面に表すことができる。

【学びに向かう力・人間性等】

里海を守るために、自分たちにできることから行動し、広めようとする。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○めあてを確認する。 「アマモを育てる活動を通し、海について学習したことを他校の人に伝えよう。」	○海洋学習を行っている3校とポスターを交流することを伝え、活動の見通しをもたせる。
10	○今年度、海洋学習に取り組んだ活動内容を振り返る。 ・外部講師の話(里海・大阪湾について) ・里海での生き物探し ・アマモについて ・水産技術センターの見学 ・ワカメについて	○今までの活動写真を提示し、振り返らせる。 ○今まで活動した中で、印象深かった出来事に注目させる。
25	○新聞のテーマ・書く内容・分担について話し合う。 ・新聞のテーマ→新聞の名前の参考に ・書く内容→記事の見出しの参考に ・出来あがりのイメージを考える	○伝える相手を意識させて、書く内容を考えさせる。 ○次時の活動がスムーズにいくよう役割分担をさせておく。
5	○次時の活動について確認する。	○今までの学習ノートや参考になる本、カラーペンなど、使うものは自分たちで用意しておくように声をかける。

6. 成果と課題

【成果】

- ・実際に海に行ったり、アマモやワカメの栽培に参加したりして、地元の海には水産資源が豊富にあることを知ることができた。
- ・アマモ活動や栽培漁業センターへの遠足などを通して、身近な海（大阪湾）にある問題点を知ることができた。
- ・環境問題について考えることで「ごみ拾いをして海をきれいにする。」「マイクロプラスチックを出さないよう、自然分解できる素材のものを使う。」など自分にできることを実践していきたいという思いをもち、地元の海を守ろうと考えることができた。

【課題】

- ・校内でアマモを種から育てており、子どもたちは、毎朝、登校時にアマモの様子を確認している。教師が日々の成長記録を写真に撮っているが、子どもたち自身が撮影することはしていなかった。今後は、タブレットを活用して、成長の記録をつけさせたい。
- ・模造紙に活動報告を作成させたが、少しずつタブレットを活用し、パワーポイントなどでも表現できるようにしたい。



6年 単元名 海洋ごみをゼロにしよう

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

校区の里海や大阪湾について調べたり、様々な体験活動を行ったりして、海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることを理解し、現在地球上で起きている環境問題を自分事としてとらえて課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

○思考力、判断力、表現力等

身近な環境問題や環境保全活動に関心をもち、環境問題を自分の問題としてとらえ、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

○学びに向かう力、人間性等

友だちと協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な里海とのかかわりを見直そうとしている。

3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1	○海洋ごみの事実を知る。 ・私たちが暮らす街で発生したごみが、海洋ごみが8割を占めていることを知る。 ・街と海が繋がっていることを再認識する。	・新聞記事をもとに、現在、世界的に問題になっている海洋ごみについて知る。 ・これからの学習についての見通しを持たせる。
	2	○海洋ごみの種類を知る。 ・プラスチックが多いこと ・マイクロプラスチック ・世界的にプラスチックごみ排出量が多い国	・教室にあるプラスチックを探すことで私たちの身の回りにはあふれていることを再認識させる。
2	3	○マイクロプラスチックを減らす取り組み ・マイクロプラスチックが与える悪影響 ・被害を受けている動物の実態の紹介 ・日本や海外における取り組みの紹介と効果	・マイクロプラスチックの特徴と動物たちへの悪影響を知らせ、考えさせる。 ・ワカメなどの海草が効果的であることを知らせ、活動の意義を確認させる。

	4 (本時), 5	○海洋ごみなどの環境問題について知り、もっと調べたいことや他の学年に知らせたいことなどを、本やインターネットで調べる。 ・海藻カーテンの取り組みの紹介 ・里海を守っていく方法を考える	・個々に感じた課題をさらに詳しくタブレットで調べさせる。
3	6	○リサイクルされているプラスチックごみについて調べ、紙面にまとめる。 ・日本において、リサイクルされているものや方法 ・リサイクルされてできる製品 ・身の回りのリサイクル製品調べ	・日本におけるリサイクル率やリサイクルするメリットから、身の回りでリサイクルされているものについて考えさせる。 ・個々に感じた課題をさらに詳しくタブレットで調べさせ、紙面にまとめさせる。

4. 他教科等との関連

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

海藻が海中で光合成を行うことにより、二酸化炭素を吸収し酸素を出す仕組みを知り、環境問題に関心を持ち、里海を守ろうとする。

【知識・技能】

本校で育てているアマモやワカメの生態が環境に役立つことを理解し、その探究の技能を身につける。

【思考力・判断力・表現力】

世界で起きている海洋ゴミ問題を理解し、図や表などを用いてまとめ自分なりに考えたことや分かった表現し、紙面に表すことができる。

【学びに向かう力・人間性等】

里海を守るために、自分たちができることから行動し、広めようとする。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○めあての確認 「マイクロプラスチックを減らす取り組み」について考える。	・マイクロプラスチックについて興味を持たせる。
20	○マイクロプラスチックを減らす取り組み 「海藻カーテン」の取り組みを紹介する。 ・光合成の仕組み ・海中の二酸化炭素の吸収 ○キーワードをおさえさせる。	・本校で育てているアマモやワカメが海中で光合成をして二酸化炭素を吸収していることを知らせる。 ・1学期に学習した「光合成」の仕組みを思い出させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・光合成、酸素、二酸化炭素 ・私たちの生活から出る二酸化炭素 ・地球温暖化 ○感想を書く。 	
20	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで感想の交流 ・グループノートや黒板の活用 	

6. 成果と課題

【成果】

- ・児童たちは、テレビや新聞などの情報から、海洋ゴミについての知識はある程度知っていたが、授業においていねいに解説し、考える時間を設けたことは大変有効であった。
- ・自分たちが毎日見ている里海にも、プラスチックごみが浮遊し、マイクロプラスチックごみになっていると気づき、陸と川・海がつながっていることを再認識することができた。

【児童感想】

- ・現在、世界で起きている海洋ゴミの問題を初めて知って、大変なことだと分かった。自分たちにできることをしっかり考えていきたいと思った。
- ・まさか私たちの生活から出るゴミが海に流れ込んでいるとは思わなかった。陸と海がつながっていることを改めて知った。
- ・前、海岸のごみ拾いをしたとき、釣り具のようなものやペットボトルがけっこう落ちてあって、学校で習った授業を思い出しました。どうして捨てる人がいるのかなと思いました。やめてほしいです。
- ・動物たちが間違っってマイクロプラスチックを食べてしまったり、釣り網に引っかかってしまったりして、命を落としていることを知りました。とてもかわいそうだと思います。
- ・ふだん、環境について気にもしていなかったけど、最近、SDGs に関係することを目にするので、興味がわいてきました。

【課題】

- ・コロナ禍において、予定どおりできなかったが、各教科の中で環境教育を進めることができた。しかし、海での実体験を行うことができなかったことが残念である。やはり実体験にまさるものはないと分かった。

令和3年度 海洋教育年間指導計画										阪南市立舞小学校			
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生								ちりめん モンスター					
	関連教科・ 学習等							図工「ちりめんのかんざし 図画「ちりめんのかくれん 道徳「ハムスターの巻 ちりめん」					
2年生								海藻おしぼ					
	関連教科・ 学習等			図工「ふし感ななまこ」 国語「スイミー」 道徳「たんしんしょうひ」 生活「かんな玉でいてい る」 音楽「ぶつかりくしら」					生活「大巻くそでてわた しの野さいい」 道徳「かんな玉にそでて、 まなこトランプ」				
3年生								海藻おしぼ					
	関連教科・ 学習等							理科「植物の暮らしにつく り」「植物の一生」					
4年生								アマモ花枝 採集 海の生き物 観察		アマモ苗床 つくり・育 成		海苔漉き体 験	
	関連教科・ 学習等			社会「大阪市の土地のよ うすと人々のくらし」 「市内の特色ある地域」 理科「水のかくえ」「夏 の生き物」				社会「大阪市の土地のよ うすと人々のくらし」 「市内の特色ある地域」 理科「玉電物の一帯」					
5年生								山・川・海 の循環につ いて学ぼう		アマモ苗床 つくり・育 成	プラスチック ごみにつ いて詳しく 学ぼう	ワカメ収穫	
	関連教科・ 学習等			理科「川原を流れる水の ゆくえ」 「ものの循環と 地球」 社会「自然ととも に生きる」 理科「自然ととも に生きる」 社会「自然ととも に生きる」				社会「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」	社会「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」	社会「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」	社会「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」	図理「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」	図理「水産業のさかんな 地域」 理科「水産業のさかんな 地域」
6年生								アマモ花枝 採集 海の生き物 観察	アマモ種子 選別				
	関連教科・ 学習等			理科「川原を流れる水の ゆくえ」 「ものの循環と 地球」 社会「自然ととも に生きる」 理科「自然ととも に生きる」 社会「自然ととも に生きる」				理科「生物どうしのかつな ぎ」 理科「生物どうしのかつな ぎ」					

1年 単元名「海の生きものとなかよし」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

○生きものとふれ合う活動を通して、生きものへの関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さに気付くとともに、生きものを大切にすることができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

チリメンの中から様々な生き物を発見する活動を通して、生き物の多様性に気づくことができる。

○思考力、判断力、表現力等

チリメンを観察して気づいたことを表現し、他の人に伝えることができる。

○学びに向かう力、人間性等

海の生き物に関心をもち、調べようとするすることができる。

3. 単元の指導計画(全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>海の生きものに関心を持つ(学びに向かう力)</p> <p>1. 海で生活している魚について話し合う。</p> <p>○知っている魚の名前、食べたことのある魚について友だちと話しあう。</p> <p>○給食や家で食べているちりめんじゃこについて話し合う。</p> <p>2. ちりめんじゃこに小さな生きものが交ざっていることを知る。</p>	<p>○国語科「うみのかくれんぼ」の学習を想起させ、つながりをもたせる。</p> <p>○図書の時間を利用し、図鑑などにもふれさせる。</p>
2	2 (本時)	<p>チリメンモンスターをさがそう(知識・技能)</p> <p>1. チリメンモンスター探すことのねらいを知る。</p> <p>2. いろいろな小さな生きものに親しむ。</p> <p>○ちりめんじゃこに交ざっているイカやタコなどの小さな生きものを探すことで海の環境に興味を持つ。</p>	<p>☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの河原美也子さん・TEAM GASA の前田ゆきみさん</p>

3	3	チリメンモンスターの観察カードを書こう(思考力、判	○色や形などのちがいに着目して書くように声をかける。
	4	断力、表現力)	
		1. チリメンモンスター探しの活動を通して気づいたことを観察カードに書く。	
		2. 観察カードを交換し、自分の気づきを交流する。	

4. 他教科等との関連

○国語科「うみのかくれんぼ」

- ・海の写真を見て、海へ行った経験や遊んだ経験について話し合う。
- ・海の生き物について知る。

○道徳科「ハムスターのあかちゃん」

- ・生き物の誕生や成長の様子を知る。
- ・命あるものを大切にする。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

チリメンモンスターを種類別に選別することで、海の中にはたくさんの生きものがあることを知り、海に親しむ。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
15	○チリメンモンスターについて知る。 ・チリメンジャコは、何の魚であるかを知る。 ・いろいろな小さな生きものが交ざっていることを知る。 チリメンモンスターをさがそう(知識・技能) ○活動の内容を知る。 ・チリメンジャコの中からいろいろな生きものを見つけ選別する。	○TEAM GASA の前田さんから、チリメンモンスターについて話を聞く。 ○写真をよく見て形や色の違いに気付くように声をかける。
20	○チリメンモンスターを小魚、エビ・カニ、タコ ・イカのグループにわけ。 《チリメンコレクションカード》 ・いろいろな小さな海の生き物に親しむ。 ○ボンドで貼る	

10	<p>○本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海には、小さな魚の仲間、エビや貝、タコやイカなどの生きものがたくさんいることに気付く。 	
----	---	--

6. 成果と課題

- ・ちりめんモンスターのことを知らない子が多くおり、実際に体験して興味を持って取り組むことができた。
- ・海の生き物がたくさんいることを実感し、もっと知りたいという児童が多くみられた。
- ・ちりめんモンスターの仲間分けをすることで、自然に海の生き物のことをくわしく学ぶことができた。とても楽しく取り組むことができた。



2年 「海辺の自然をたのしもう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- 海の生き物の名前や、海の乗り物に関心を持ち、進んで調べることができる。
- 海辺での遊びや生き物などのふれあいを通して、海の自然に親しみ、進んで海に関わることができる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海の漂着物について知り、ビーチコーミングの活動について理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

活動を通して気づいたことや感じたことを文や絵に表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

海の漂着物や海岸の様子に関心を持ち、さらに調べようとする意欲をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">海の漂着物について知り、関心を持つ。(知識・技能)(学びに向かう力、人間性等)</div> <ol style="list-style-type: none">1. 昨年のチリメンモンスターの活動を思い出し、海の生き物について話し合う。2. ビーチコーミングの活動について知る。3. 海岸に流れ着いた貝殻や石、流木や海藻などの漂流物について考える。	○生き物の多様性を想起できるよう、ちりめんモンスターの活動時の写真などを用意する。
2	2 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ビーチコーミングで海を感じよう。(学びに向かう力、人間性等)</div> <ol style="list-style-type: none">1. 海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。	☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん ○体調管理に十分気をつけ、定期的に水分補給をさせる。

		<p>2. ビーチコーミングを通して、海と山や川のつながりに気づく。</p> <p>3. きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つける。</p>	<p>○貝殻や石、シーグラス以外の漂着ごみの存在も意識できるよう、声かけをする。</p> <p>○去年のちりめんモンスターを想起させ、生き物以外の海の自然に関心がもてるよう、声かけをする。</p>
3	4	<p>見たこと、かんじたことをワークシートに書こう。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>1. ビーチコーミングの活動を通して見たこと、感じたことを観察カードに書く</p>	<p>○前時のふりかえりを想起させ、生き物以外の海の自然に関心がもてるよう、声かけをする。</p>
4	5	<p>「せかいで一つだけのわたしのかがみ」を作ろう。(思考力、判断力、表現力等)</p>	
	6	<p>1. 貝殻や石、シーグラスなどをきれいに洗い、乾かしておく。</p> <p>2. かがみの上に貝殻、石、シーグラスを置き、ボンドをつけて固定する。</p>	

4. 他教科等との関連

○国語科「きょうのできごと」「スイミー」「見たこと、かんじたこと」

- ・「きょうのできごと」「見たこと、感じたこと」では、体験したことを振り返り、文章で表現する。
- ・「スイミー」では、海の生き物について親しみをもつ。

○図画工作科「せかいで一つだけのわたしのかがみ」

- ・海岸で拾った貝殻やシーグラスを使ってオリジナルフォトフレームを作り、海への関心を高める。

○道徳「まいごになった赤ちゃんくじら」

- ・自然や生き物に親しみ、優しい心で接しようとする。

○生活科「みんな生きている」

- ・生き物のいる場所や変化に関心をもち、大切に育てようとする。

○音楽科「ぷっかりくじら」「いるかはざんぶらこ」

- ・リズムによって楽しく歌い、海の生き物に興味をもつ。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 海岸に落ちている漂着物を拾い集め、観察しながら散策するビーチコーミングの活動を通して、海と森や川とのつながりや海辺に生息する生きものへの興味・関心をもつことができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○ビーチコーミングの説明を聞く。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん
30	<p>ビーチコーミングで海を感じよう。</p> <p>○海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。</p> <p>○ビーチコーミングを通して、海と山や川につながりに気づく。</p> <p>○きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つけ、採集する。</p>	<p>○体調管理に十分気をつけ、定期的に水分補給をさせる。</p> <p>○貝殻や石、シーグラス以外の漂着ごみの存在も意識できるよう、声かけをする。</p>
10	<p>○本時の学習をふりかえる。</p> <p>・ビーチコーミングの活動をふりかえり、海辺の生き物だけでなく、海の環境についても興味を持つ。</p>	○昨年のちりめんモンスターを想起させ、生き物以外の海の自然に関心がもてるよう、声かけをする。

6. 成果と課題

- ・事前のパワーポイントで、西鳥取海岸のことやビーチコーミングについて学習していたので、より興味がわき、ビーチコーミングがさらに楽しみになった。
- ・ビーチコーミング当日は暑かった。活動時間や水分補給が大切。
- ・変わった形の石やきれいな模様の貝殻などを見つけ、夢中になって取り組んでいた。同時に、海にたくさんのゴミが落ちていることに気づくことができた。
- ・自分で拾ったものを生かして、楽しみながら写真立てを作ることができた。ビーチコーミングの時に撮った写真を入れ、楽しい思い出作りができた。
- ・活動の後、再度家族でビーチコーミングをしに海岸へ行ったり、拾った貝について調べてきたり、形をうつして絵を描いたり、意欲的に学習を深める児童がいた。



2年 単元名「海藻ってなんだろう？」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海藻は特徴ごとに種類があることや、日本の文化との関わりが深いことを理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

海藻の特徴を生かし、自分の表したいものを表現することができる。

海藻を育む海の環境について考えたことを、文章や絵に表すことができる。

○学びに向かう力、人間性等

身近な海藻について関心をもち、調べたり表現したりしようとするすることができる。

3. 単元の指導計画(全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>海藻について知ろう(学びに向かう力、人間性等 知識・技能)</p> <p>1. 給食の海藻サラダを思い出す。 何色の海藻が入っていたか。</p> <p>2. 海藻について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○海藻の色は3種類(緑藻、褐藻、紅藻)○世界中には海藻が約8000種類○日本で食べるのは約100種類○海藻おしばへの見通し	<p>○ワカメ、コンブ、トサカノリ、フノリなどの色を思い出す。</p> <p>○スライド「海藻って？」を見る。</p>
2	2・3 (本時)	<p>海藻おしばを作ろう(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>1. 海藻の種類やはたらきについて知る。</p>	<p>○海藻のはたらきを知ること で、海藻が育ちやすい海に していかなければいけないこと</p>

		<p>2. 海藻おしばの作り方を知る。 海藻の形や特徴を知る。</p> <p>3. 海藻おしばを作る。 海藻の形を生かして思い思いの作品を作る。</p> <p>4. 活動をふり返る。</p>	<p>に気づけるよう声かけをする。</p> <p>○海藻の色や形を上手く組み合わせるよう声かけをする。</p> <p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの河原美也子さん・TEAM GASA の前田ゆきみさん</p>
3	4	<p>海藻おしば作りをふり返ろう（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>1. 海藻おしば作りの活動を思い出す。</p> <p>2. 海藻おしば作りをふり返り、絵や文章で表す。</p>	<p>○どんな海藻があったか話し合う。</p>

4. 他教科等との関連

生活「大きくそだてわたしの野さい」

- ・野菜が育つ場所や変化の様子に関心を持ち、親しみを持って大切にすることができる。

道徳「げんきにそだて、ミニトマト」

- ・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心を持って接しようとする態度を育てる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 海藻にふれ、親しみ、興味をもつ。
- 海藻の形や特徴を生かして、表したいものを表現する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
20	○海藻おしばの作り方について話を聞く。 海藻おしばを作ろう（思考力、判断力、表現力等）	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの河原美也子さん・TEAM GASA の前田ゆきみさん
65	○海藻を組み合わせて海藻おしばを作る。 ・表したいものを考える。 ・海藻の色や形を生かして組み合わせ表現する。	○海藻の色や形を上手く組み合わせるよう指導する。
5	○活動をふり返り、海藻について感じたことや活動についての感想を書く。	○これからも海を知る活動を継続していくことを確認する。

6. 成果と課題

- ・海藻は色々な色があることにびっくりして、興味を持ちながら活動することができた。
- ・海藻に触れることで、海藻の特徴や種類を自然に学ぶことができた。
- ・活動後、給食に海藻が出たときに「今日は海藻が入ってる。」と気づく児童もいた。
- ・活動に合わせて、給食のメニューに海藻サラダをお願いすることができるので、来年度の年間計画が決まったら、時期を合わせるようにしたい。



3年「海藻ってなんだろう？」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海藻は特徴ごとに種類があることや、日本の文化との関わりが深いことを理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

海藻の特徴を生かし、自分の表したいものを表現することができる。

海藻を育む海の環境について考えたことを、文章や絵に表すことができる。

○学びに向かう力、人間性等

身近な海藻について関心をもち、調べたり表現したりしようとするすることができる。

3. 単元の指導計画(全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>海藻について知ろう(学びに向かう力、人間性等 知識・技能)</p> <p>1. 給食の海藻サラダを思い出す。 何色の海藻が入っていたか。</p> <p>2. 海藻の種類やはたらきについて知る。 ○海藻は3種類(緑藻、褐藻、紅藻) ○はたらき</p> <ul style="list-style-type: none">・海にすむ魚などの生き物の すみか、えさ、卵をうむ場所、赤ちゃんが育つ場所になる。・海の水をきれいにする。・生き物にひつような酸素(さんそ)をつくる。	<p>○ワカメ、コンブ、トサカノリ、フノリなどの色を思い出す。</p> <p>○スライド「海藻って？」を見る。</p>

		・栄養がある（人間の体にいい）	
2	2 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">海藻おしばを作ろう（思考力、判断力、表現力等）</div> <p>1. 海藻おしばの作り方を知る。</p> <p>2. 海藻おしばを作る。 色んな色を組み合わせ、海藻の形を生かして思い思いの作品を作る。</p> <p>3. 活動をふり返る。</p>	○海藻の色や形を上手く組み合わせるよう指導する。
3	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">海藻おしばを鑑賞しよう（思考力、判断力、表現力等）</div> <p>1. 友だちの作品を鑑賞する。 自分の作品で工夫したところを発表する。 友だちの作品でよいところを発表する。</p> <p>2. ふり返りをする。</p>	○海藻の色や形をうまく使っているところに注目させる。

4. 他教科等との関連

○理科「植物の育ちとつくり」（6月）

植物の体は根、茎及び葉からできていることを理解する。

○理科「植物の一生」（10月）

種から発芽し、子葉が出て、葉が茂り、花が咲き、実ができた後に枯死するという植物の成長の順序や、体のつくりについての考えをもつことができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

○海藻にふれ、親しみ、興味をもつ。

○海藻の形や特徴を生かして、表したいものを表現する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○海藻おしばの作り方について話を聞く。 海藻おしばを作ろう（思考力、判断力、表現力等）	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの河原美也子さん・TEAM GASA の前田ゆきみさん
35	○海藻を組み合わせて海藻おしばを作る。 ・表したいものを考える。 ・海藻の色や形を生かして組み合わせ表現する。	○海藻の色や形を上手く組み合わせるよう指導する。
5	○活動をふり返り、海藻について感じたことや活動についての感想を書く。	○これからも海を知る活動を継続していくことを確認する。

6. 成果と課題

- ・海藻は3種類に分けられることを知り、よく食べている海藻はどれに分類されるのか興味を持つことができた。
- ・海藻の色や形の特徴を生かし、楽しみながら海藻おしばを作ることができた。
- ・海藻の役割については、もう少し学ぶ時間を取るべきだった。
- ・活動近くで給食に海藻サラダをお願いしておけば、イメージしやすかった。



4年 「アマモの種を西鳥取の海に植えよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

アマモを植える活動を通して、海洋問題に取り組む主体性を育む。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

アマモの役割を知り、育成に取り組む必要性について理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

今後の自分たちの活動について考えたことを表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

アマモを植える活動を通して、自分たちも保全活動に取り組むという意識をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>アマモについて知ろう(知識・技能)</p> <p>1. 6年生が育成に取り組んできた「アマモ」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○アマモの役割… 海をきれいにする。生き物のすみかになる。○アマモを育てる理由… 大阪湾をきれいにする。魚を増やしたい。 <p>2. これまでの6年生の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○6年生が5年時に行った取り組みを知る。	<p>○昨年度までの活動の様子を写した写真を示し、どのような活動に取り組んできたかを視覚的に捉えられるようにする。</p>
2	2 (本時)	<p>アマモの種を西鳥取の海に植えよう(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>1. アマモの植え方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○ポットを準備する。 <p>2. アマモを植える。</p>	<p>☆講師: NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん</p>

		3. 今日の活動をふりかえる。	
3	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 今後の取り組みについて考えよう (思考力、判断力、表現力等) </div> 1. アマモの成長した様子を観察する。 2. 気づいたことを交流する。 3. 今後自分たちにできることを考え、交流する。	

4. 他教科等との関連

○理科「生き物の一年間」

- ・生き物を観察し、動物の活動や植物の成長と季節との関係を理解することができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- アマモを植える活動を通して、自分たちも保全活動に取り組むという意識をもつ。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
15	○アマモについての概要と、アマモの植え方についての説明を聞く。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん
20	○アマモを植える。 ・においや色などに注目して、種子を観察する。	○植える前に種を観察するよう、声かけをする。
10	○今日の活動をふりかえり、気づきを交流する。	

6. 成果と課題

- ・実際にアマモの種子を手に取り、観察したことで、今までの学習で植えた植物の種子とのちがいにも気づくことができていた。
- ・今後のアマモの成長を楽しみにする児童の姿や発言が多かった。
- ・今回は海での活動ができず、ポッドに植えるだけの活動になってしまった。
このような場合も予想して、代替の活動も検討していく必要がある。

4年 「アマモと海の生き物にふれよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- 6年生が植えたアマモについて知る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

アマモの特徴やはたらきについて理解することができる。

大阪湾に多様な生物が生息していることを理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

生き物観察から気づいたことを絵や文などに表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

海の生き物に関心を持ち、生き物たちがくらす海を守っていかうという意欲をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	大阪湾の生き物について考えよう(知識・技能) 1. アマモの花枝採集と生き物観察について、活動内容を知り、目的を確認する。 2. 大阪湾に生息する生き物の種類について、数を予想する。 3. アマモの特徴やはたらきについて知る。 4. 海で活動する際の注意点について確認する。	 ○海藻と海草のちがいについておさえる。 ○「海あそび講座」のパンフレットを利用し、危険予測をする。
2	2	アマモの種子と生き物を採集しよう(知識・技能) 1. アマモの種子と、その採集方法について知る。	

3 (本時)	<p>2. アマモの種子を採集する。</p> <p>3. アマモ場に入り、生き物を採集する。</p> <p>4. 採集した生き物を観察する。</p> <p>5. 海の生き物の分類方法について知る。</p> <p>6. 採集した生き物の種類を知る。</p>	<p>☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん・チーム GASA のみなさん</p> <p>○安全確保のため、活動区域を区切る。</p> <p>○テトラポッドや岩場等、危険な箇所に教職員が立ち、活動を見守る。</p>
3	<p>4</p> <p>観察して気づいたことを表現しよう(思考力、判断力、表現力等)(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>1. 生き物観察を通して気づいたことをふりかえり、交流する。</p> <p>2. アマモを植える活動の意味について考える。</p> <p>3. 花枝採集・生き物観察を通して気づいたことを文章と絵に表現する。</p>	<p>○それぞれが見つけた生き物について紹介するなどして、多様性に気づけるように声かけする。</p>

4. 他教科等との関連

○社会科「くらしと水」「大阪府の郷土」

- ・自分たちが使う水がどのようにつくられ、使った水がどのように処理されているのかを理解することができる。
- ・地域の特色に着目し、地形や環境との結びつきについて理解することができる。

○理科「水のすがた」「水のゆくえ」

- ・水が温度によって状態を変化させることを理解する。
- ・水が状態変化することで、自然の中を循環していることを理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- アマモについて知る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○アマモの種子と、その採集方法について知る。	○海で活動する際の注意点を確認する。
40	○アマモの花枝を採集する。 ○アマモ場に入り、生き物を採集する。	○活動区域を区切り、児童に周知する。 ○教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。
40	○採集した生き物を観察する。 ○海の生き物の分類方法について知る。 ○採集した生き物の種類を知る。	○チーム GASA の皆さんから、それぞれの生き物について解説して頂く。 ○生物の種類を知ること、アマモ場に多様な生き物がいることに気づけるよう、声かけをする。

6. 成果と課題

- ・アマモ場にはたくさんの生き物がいるということを実感することができた。
- ・アマモ場で採取した生き物を学校で飼育することで、海の生き物への関心を全校的に高めることができた。児童の中には、水槽の生き物を見ている下級生の子に、海にはたくさんの生き物がいることを教えてあげている子がいた。
- ・今年度は移動に時間がかかってしまい、予定した活動時間が確保できなかった。移動手段の見直しや、活動内容の縮小を検討する必要がある。

4年 「海苔すき体験をしよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- ・大阪湾の海苔の養殖について知る。
- ・海苔すきを体験し、食べることで海を身近に感じ、すばらしさを知る。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

- ・大阪湾の海苔の養殖について知り、地元の産業とのつながりを理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

- ・海苔すき体験を通して気づいたことや考えたことを、文や絵で表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

- ・海苔すき体験を通して、地元の特産に関心をもち、関わっていこうとする意欲をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全5時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	海苔の養殖について知ろう(知識・技能) 1. 昨年とりくんだ海藻おしばの様子を見る。 ・3種類の海藻があること(緑藻・紅藻・褐藻) ・海藻の色々な色をつかって絵はがきを作ったこと ・海藻のはたらきを知ったこと	○昨年度行った「海藻おしば」の様子をスライドで見せる。 ○海苔すきをしている動画を示し、視覚的に理解しやすくする。 ○やけどをしないように気をつけるよう、声かけをする。 ☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸域環
	2	2. 大阪湾の海苔の養殖について知る。 ・瀬戸内海や九州などで多く養殖されている。 ・大阪湾で養殖されているのは西鳥取の海だけ 3. 海苔すきの方法について知る。	
		4. 海苔すきの枠を作る。	

			境創造研究センターの岩井克巳さん
2	3 4 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海苔すき体験をしよう(学びに向かう力、人間性等)</div> <p>1. 採れたての海苔を観察する。</p> <p>2. 海苔すき体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔すきの説明を聞く。 ・自分の作った枠に海苔を流し込む。 ・できた海苔をかわかす。 	<p>☆西鳥取漁協のみなさん</p> <p>☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん</p>
3	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">のりすき体験で知ったことを表現しよう(思考力、判断力、表現力等)</div> <p>1. 海苔すき体験をしたことをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西鳥取の海の様子(海辺のごみ) ・漁協の人の思い ・自然のよさ ・郷土の産業 <p>2. 海苔すき体験で知ったことや考えたことを文章に表現する。</p>	<p>○体験時の写真を用意しておき、ふりかえられるようにしておく。</p>

4. 他教科等との関連

○社会科「くらしと水」「大阪府の郷土」

- ・自分たちが使う水がどのようにつくられ、使った水がどのように処理されているのかを理解することができる。
- ・地域の特色に着目し、地形や環境との結びつきについて理解することができる。

○理科「水のすがた」「水のゆくえ」

- ・水が温度によって状態を変化させることを理解する。
- ・水が状態変化することで、自然の中を循環していることを理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・海苔すき体験を通して、地元の特産に関心を持ち、関わっていこうとする意欲をもつことができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○採れたての海苔を観察し、海苔すきの枠に入れる前の様子を知る。	○乾燥後と比較ができるよう、写真に残しておく。
35	○海苔すき体験をする。 ・海苔すきの方法を知る。 ・海苔をすく。 ・すいた海苔を干す。	☆西鳥取漁協のみなさん ☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん
5	○活動をふりかえる。 ・海苔すきをして感じたことや考えたことを交流する。	

6. 成果と課題

- ・阪南市は大阪府下で唯一の海苔の養殖場であることを知り、驚くと同時に「阪南市すごいやん。」と地域に誇りをもっていた。
- ・普段食べている海苔を実際にすくことで、「こんな風にできているんだ。」と驚いた様子であった。
- ・手すきを体験したことで、食べ物や、食べ物を作る人々への感謝の気持ちももっていた。

5年 「アマモの種を西鳥取の海に植えよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

アマモを植える活動を通して、海洋問題に取り組む主体性を育む。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

アマモの役割を知り、育成に取り組む必要性について理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

今後の自分たちの活動について考えたことを表現することができる。

○学びに向かう力、人間性等

アマモを植える活動を通して、自分たちも保全活動に取り組むという意識をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	<p>アマモについて知ろう(知識・技能)</p> <p>1. 6年生が育成に取り組んできた「アマモ」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○アマモの役割… 海をきれいにする。生き物のすみかになる。○アマモを育てる理由… 大阪湾をきれいにする。魚を増やしたい。 <p>2. これまでの6年生の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○6年生が5年時に行った取り組みを知る。	<p>○昨年度までの活動の様子を写した写真を示し、どのような活動に取り組んできたかを視覚的に捉えられるようにする。</p>
2	2 (本時)	<p>アマモの種を西鳥取の海に植えよう(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>1. アマモの植え方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○ポットを準備する。 <p>2. アマモを植える。</p>	<p>☆講師: NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん</p>

		3. 今日の活動をふりかえる。	
3	3	今後の取り組みについて考えよう (思考力、判断力、表現力等) 1. アマモの成長した様子を観察する。 2. 気づいたことを交流する。 3. 今後自分たちにできることを考え、交流する。	

4. 他教科等との関連

○社会科「水産業のさかんな地域」

- ・水産資源には限りがあるため、持続可能な漁業の取り組みやそれに関わる人々の工夫や努力、水産物、資源管理について理解することができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- アマモを植える活動を通して、自分たちも保全活動に取り組むという意識をもつ。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
15	○アマモについての概要と、アマモの植え方についての説明を聞く。	☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己さん
20	○アマモを植える。 ・においや色などに注目して、種子を観察する。	○植える前に種を観察するよう、声かけをする。
10	○今日の活動をふりかえり、気づきを交流する。	

6. 成果と課題

- ・実際にアマモの種子を手に取り、観察したことで、今までの学習で植えた植物の種子とのちがいにも気づくことができていた。
- ・今後のアマモの成長を楽しみにする児童の姿や発言が多かった。
- ・今回は海での活動ができず、ポッドに植えるだけの活動になってしまった。
このような場合も予想して、代替の活動も検討していく必要がある。

5年 「自分たちでワカメを育てて収穫しよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

海藻と人とのかかわりを知り、海の資源について考える。

ワカメを種付けし収穫する活動を通して、海の環境問題について考える。

ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

ごみや家庭排水が海へあたえる影響について学ぶ。

○思考力、判断力、表現力等

海の環境を守り、より良い関係で共存していくために、調査や体験から課題を見いだしたり、解決方法を考えたりし、自分たちの活動を振り返ることができる。

○学びに向かう力、人間性等

海の環境を守り、より良い関係で共存していくために、進んで調査や体験から課題を見いだしたり、解決方法を考えたりし、自分たちの活動を振り返ろうとしている。

3. 単元の指導計画(全3時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	海藻と海草について知ろう(知識・技能) 1. 海藻と海草について知る。 2. 海藻の海での役割や人とのかかわりについて知る。 3. ワカメの種付けについて知る。	
2	2	ワカメの種付けをしよう(学びに向かう力、人間性等) 1. ワカメの種付けの方法を知る。 ○太いロープにワカメの種のついた糸をまきつける。 2. ワカメの種をつける。 3. 今日の活動をふりかえる。	☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克巳さん

3 本時	ワカメを収穫しよう(思考力、判断力、表現力等)	☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸 域環境創造研究センターの岩 井克巳さん ○ワカメの様子についてよく観察 させる。
	1. ワカメの成育の流れや収穫の方法を知る。	
	2. ワカメの収穫を行う。	
	3. 今日の活動をふりかえる。	

4. 他教科等との関連

○家庭科「おいしい楽しい調理の力(調理実習・ゆでる)」

「食べて元気!ご飯とみそ汁(栄養素のはたらき)」

伝統的な日常食であるごはんとみそ汁を作り、食事の役割や栄養バランスを考えることができる。

○社会科「水産業のさかんな地域」

水産資源には限りがあるため、持続可能な漁業の取り組みやそれに関わる人々の工夫や努力、水産物、資源管理について理解することができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○岩井さんからワカメの成育の流れについての話を聞く。 ○岩井さんからワカメの収穫方法の説明を聞く。	☆講師:NPO 法人大阪湾沿岸 域環境創造研究センターの岩井 克巳さん
25	○ワカメを観察する。 ○ワカメの収穫をする。	○ワカメの様子についてよく観察 させる。 ○観察して気づいたことを共有で きるよう声かけをする。 ○切る際にワカメの様子を見るよ う声かけをする。
10	○岩井さんからワカメの利用法や保存について説明を聞く。	

6. 成果と課題

子どもたちはとても楽しく活動できていました。育つ過程が分かりにくいので、そこを映像などで見せることができたらと思いました。

<子どもたちの感想>

- ・最初見たときは、種を植えたときはあんなに小さかったのに、自分の身長と同じぐらいの大きさのものが取れて、楽しかったです。
- ・たくさんワカメをとったのでワカメ料理を調べて、食べてみたいです。
- ・岩井さんの話を聞いて、海水の温度によって育つ量が変わることが分かりました。
- ・わかめも植物と同じ条件が必要なんだと知りました。

6年 「アマモと海の生き物にふれよう」

阪南市立舞小学校

1. 単元目標

- アマモの種子を採集し、自分たちの活動を引き継ぐ。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づき、これまでの活動の重要性を理解する。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

アマモの特徴やはたらきについて理解することができる。

大阪湾に多様な生物が生息していることを理解することができる。

○思考力、判断力、表現力等

自分たちが取り組んできた活動について、考えや思いを表現し、伝えることができる。

○学びに向かう力、人間性等

自分たちが取り組んできた活動について、伝えようとする意欲をもつことができる。

3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	大阪湾の生き物について考えよう(知識・技能) 1. アマモの花枝採集と生き物観察について、活動内容を知り、目的を確認する。 2. 大阪湾に生息する生き物の種類について、数を予想する。 3. アマモの特徴やはたらきについて知る。 4. 海で活動する際の注意点について確認する。	 ○海藻と海草のちがいについておさえる。 ○「海あそび講座」のパンフレットを利用し、危険予測をする。
2	2・ 3 (本時)	アマモの種子と生き物を採集しよう(知識・技能) 1. アマモの種子と、その採集方法について知る。 2. アマモの種子を採集する。	 ☆講師：NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターの岩井克己

		<p>3. アマモ場に入り、生き物を採集する。</p> <p>4. 採集した生き物を観察する。</p> <p>5. 海の生き物の分類方法について知る。</p> <p>6. 採集した生き物の種類を知る。</p>	<p>さん・チーム GASA のみなさん</p> <p>○安全確保のため、活動区域を区切る。</p> <p>○テトラポッドや岩場等、危険な箇所に教職員が立ち、活動を見守る。</p>
3	4	<p>自分たちの活動を引き継ごう(思考力、判断力、表現力等)(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>1. これまでに取り組んできた活動をふりかえる。</p> <p>2. 自分たちが取り組んできた活動をまとめる。</p> <p>3. 下級生に伝えるために練習をする。</p>	<p>○これまでの活動写真を用意し、取り組んだ活動を想起しやすいようにしておく。</p>

4. 他教科等との関連

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

- ・生物どうし、および空気や水を通した生物のつながりについて理解し、生物と環境についての考えをもつことができる。
- ・ヒトやほかの生物と環境がどのようにかかわり合っているかを理解し、自然を大切にしようとすることができる。

○社会科「国際連合と日本の役割」

- ・地球規模で起きている様々な地球環境問題を通して、持続可能な開発のために人々が協力して取り組むことが大切であることを理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- アマモ場に住む生き物の多様性に気づき、これまでの活動の重要性を理解する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	○アマモの種子と、その採集方法について知る。	○海で活動する際の注意点を確認する。
40	○アマモの花枝を採集する。 ○アマモ場に入り、生き物を採集する。	○活動区域を区切り、児童に周知する。 ○教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。
40	○採集した生き物を観察する。 ○海の生き物の分類方法について知る。 ○採集した生き物の種類を知る。	○チーム GASA の皆さんから、それぞれの生き物について解説して頂く。 ○生物の種類を知ること、アマモ場に多様な生き物がいることに気づけるよう、声かけをする。

6. 成果と課題

- ・自分たちの取り組んできたことが、実際に生き物の生息環境に影響を与えているということを実感することができていた。
- ・採集した生き物を、担当の委員会所属の児童を中心として飼育した。下級生が興味をもって見ている様子に喜びを感じている児童もいた。
- ・今年度は移動に時間がかかってしまい、予定した活動時間が確保できなかった。移動手段の見直しや、活動内容の縮小を検討する必要がある。

令和3年度 海洋教育年間指導計画		阪南市立上荘小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生				海の生き物 見つけ					ちりめん モンスター				
	関連教科・ 学習等			図工「海の 生き物を描 こう」 海の生き物 見つけ ピーチコー ミング	石ころア ート				図工「うみのなかのふし きはないきもの」 図画「うみのかくれん ぼ」 演劇「ハムスターの赤 ちゃん」				
2年生					図工「ざい りようから ひらめき」								
	関連教科・ 学習等			図工「らしきなまご」 図画「かんじろうひ」 年画「みんなは生きてい る」 音楽「あつかりくしら」	図工「ざい りようから ひらめき」								
3年生				海の生き物 見つけ					ちりめん モンスター			海藻おしぼ	
	関連教科・ 学習等			海の生き物 見つけ					ちりめん モンスター			海藻おしぼ	
4年生				アマモ花枝 採集 海の生き物 観察									
	関連教科・ 学習等			社会「大阪市の土地のよ さ」 理科「大阪府の特色ある出漁」 理科「水のゆくえ」 理科「水のゆくえ」 理科「水のゆくえ」 理科「水のゆくえ」									
5年生									漁港へ行こ う 漁法や漁船 について	ワカメ種付	ワカメ収穫		
	関連教科・ 学習等								社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」	社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」	社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」 社会「水産物のさかんな 地域」	家庭科「おいしい楽しい 調理の力」「食べ物で元 氣」「こぼれおぼろ」 理科「水産物のさかん な地域」 社会「環境問題について 調べよう」	
6年生									清掃活動 海の生き物 観察				
	関連教科・ 学習等								理科「生物どうしつな み」 理科「国際とともに生 きる」 社会「国際連合と日本の 役割」				

1年 単元名 「海の生き物にふれよう」

阪南市立上荘小学校

1. 単元のねらい

○海の生き物とのふれあいを通して、生き物の特徴や様子について興味を持ち、自然に親しむことができる。

2. 単元の指導計画（全7時間）

次	時間数	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆外部との連携
1	2	<p>ビーチコーミングに行き、海の生き物を知ろう</p> <ol style="list-style-type: none">1. ビーチコーミングで生き物を見つける。2. 見つけた生き物について、外部講師に尋ねる。	<p>☆外部講師に、海の生き物について詳しく説明してもらう。</p>
2	2	<p>チリメンモンスターをさがそう</p> <ol style="list-style-type: none">1. チリメンモンスターについて知る。2. 海にはいろいろな生き物がいることに気づく。	<p>☆外部講師から、チリメンモンスターについて話を聞く。</p> <p>○写真をよく見て、形や色の違いに気づくよう声掛けをする。</p>
3	3	<p>チリメンモンスターを家族に紹介しよう</p> <ol style="list-style-type: none">1. 家族に紹介したいチリメンモンスターを一匹選び、よく観察して、色や形などの特徴を観察カードにメモをする。2. チリメンモンスターの観察カードをもとに、文章にする。3. おうちの人に紹介し、一言もらう。	<p>○一番紹介したいチリメンモンスターを一匹選び、特徴をとらえさせる。</p>

4. 他教科等との関連

○図工 「うみのなかのふしぎないきもの」

○国語科 「うみのかくれんぼ」

「しらせたいな、見せたいな」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

チリメンモンスターを種類別に選別することで、海の中にはたくさんの生き物がいることを知り、海に親しむ。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
15	<p>1. チリメンモンスターについて知る。</p> <p>○ちりめんじゃこは何の魚であるかを知る。</p> <p>○いろいろな小さな生き物が混ざっていることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">チリメンモンスターをさがそう</div> <p>3. 活動内容を知る。</p> <p>○ちりめんじゃこの中から、いろいろな生き物を見つけ、選別する。</p>	<p>☆外部講師から、チリメンモンスターについて話を聞く。</p> <p>○チリメンモンスターの形や色の違いをよく観察させる。</p>
25	<p>4. いろいろな小さな海の生き物に親しむ。</p> <p>○チリメンモンスターを小魚、エビ・カニ、タコ・イカのグループに分け、カードに貼る。</p>	<p>○写真をよく見て、チリメンモンスターのグループ分けをさせる。</p>
10	<p>5. 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○海には、小さな魚の仲間、エビや貝、タコやイカなどの生き物がたくさんいることに気づく。</p>	

6. 成果と課題

- ・海の中にはたくさんの生き物がいることを実感することができていた。
- ・チリメンモンスターに実際に触れて観察することで、より身近に感じ、興味を持って取り組むことができた。
- ・いろいろな種類のイカやタコの仲間を見ることで、様々な特徴を持った種類がいることを学ぶことができた。

7. 活動中の様子



2年 単元名 「海洋教育ってなあに」

阪南市立 上荘小学校

1. 単元のねらい

○海洋教育について知り、自分たちが住んでいる地域の自然に親しむことができる。

○海の生き物にふれたり、漂着物を収集したりして海に親しむことができる。

2. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○海洋教育について知る。【生活】 ・海洋教育がどんな意味なのかを説明する。 ・地図を見ながら、大阪府や阪南市の海について知る。	○児童たちに海洋教育について地図や簡単なイラストを使って分かりやすく説明する。
2	2	○ビーチコーミングに行き、海の生き物や漂着物・浜辺の石を見つける。【生活】 ・身近な海に生息する生き物を知り、海岸などに打ち上げられた漂着物を集め、観察する。 ・集めた貝殻・シーグラス・石、見つけた生き物について、分かったことや知ったことなどをワークシートに書く。	○海辺での活動での注意を事前に伝える。 ☆外部講師に講師依頼。 ○ワークシートに記入する内容を詳しく伝える。（見たこと、分かったこと、気付いたことなど。）
3	3 (本時) 4	○石ころアートをする。【図工】 ・ビーチコーミング時に集めた石で、石ころアートをする。 ・石の形を写し、その形を何かに見立てて描くようにする。（下書き） ・石に描いていく。	準備物 ・ピグマックス ・油性ペン ・色鉛筆 ○石に絵を描くだけでなく、その石を何かに見立てて描くようにする。（例えば、亀や目玉焼き等）
4	5	○ちりめんモンスターを探す。【生活】 ・ちりめんモンスターについて知る。 ・用意してくれたおさかなシートを元に、何の生き物かを見つける。	☆外部講師に講師依頼。

4. 他教科等との関連

○国語科「スイミー」

○図工科「海の生きもの（ちぎり絵）」

○SDGs「チリメンモンスター」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

○ビーチコーミングで収集してきた石に絵を描き、友だちと見せ合い、工夫したところを伝えあう。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10分	1. 学習内容とめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">石ころをへんしんさせよう。</div> 2. 石の形を紙に写し取り、下書きをする。	○海で収集してきた石に手を加え、変身させる時間であることを知らせる。石を何かに見立てることが重要ポイント。 ○児童から出なかったら、変身のアイデアを個別に伝える。 ○石の角などをうまく使えるようにする。
25分	3. 実際に石に絵を描く。 ○マジックで、下書きを見て絵を描く。	○塗れていないところがないように丁寧に塗る。
10分	4. 友だちの石ころアートを見せ合う。 ○グループで自分の作った作品の、工夫したところを伝え合う。	○友だちの作品のよさを見つけて伝えてさせる。

6. 成果と課題

児童の感想等より児童の変容を含めて記入

○海洋教育について、初めて知ることが多く児童たちも楽しく活動することができた。

○海洋教育と聞いて、「海」だけと捉えがちだが、山・海・川・里とすべて繋がっているということが分かった。

○1年間だけで終わらず、引き続き取り組んでいくことが大切だと思う。

○石に上手に絵を描くことができた。石に直接、子どもたちから「あなたはだあれ？」と話しかける姿がとても印象的だった。

3年 「海の生き物について知ろう」(8時間)

阪南市立上荘小学校

1. 単元目標

- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。
- 海藻が植物のもとになっていることを知る。

2. 単元の指導計画(全8時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1, 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ビーチコーミングに行って、海の生き物を観察しよう。 </div> 1. 海へ行き、カニや貝などを見つけ、海の生き物に興味を持つ。 2. きれいな石や貝殻を拾う。	○外部講師に来てもらい、海の生き物について詳しく説明してもらおう。(貝の種類など)
2	3～6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 海の生き物の絵を描こう。 </div> 1. 海の生き物を調べる。 ・魚、海藻、貝など、どんな生き物が海にいるか調べる。 2. 海の生き物の絵を描く。 ・好きな魚を選び、周りに海藻や貝など自分が思う海の絵を描く。	○タブレットを使って、海の生き物を調べる。 ○タブレットを見ながら色使いに気をつけて、色を塗る。 ○ビーチコーミングに行った時のことを思い出しながら、海の絵を描く。
3	7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 海藻おしばを作ろう。 </div> 1. 海藻おしばの作り方を知る。 2. 海藻おしばを作る。 ・ビーチコーミングや海の絵を描いた時のことを思い出しながら作品を作る。 3. 活動のふり返りをする。	

4	8	<p>作品を鑑賞しよう。</p> <p>1. 友だちの作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の工夫したところを書く。 ・友だちの作品のよいところを伝え合う。 <p>2. ふり返りをする。</p>	
---	---	--	--

4. 他教科等との関連

○図画工作「海の絵を描こう」

- ・タブレットで海の生き物を調べ、自分が思う海の絵を描く。

○理科「植物の育ちとつくり」(6月)

- ・植物は、根・くき・葉からできていることを理解する。

○理科「植物の一生」(10月)

- ・種から発芽し、子葉が出て、葉が茂り、花が咲き、実ができた後に枯死するという植物の生長の順序や、体のつくりについての考えをもつことができる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・海藻にふれ、親しみ興味をもつ。
- ・海藻を使って表したいものを表現する。

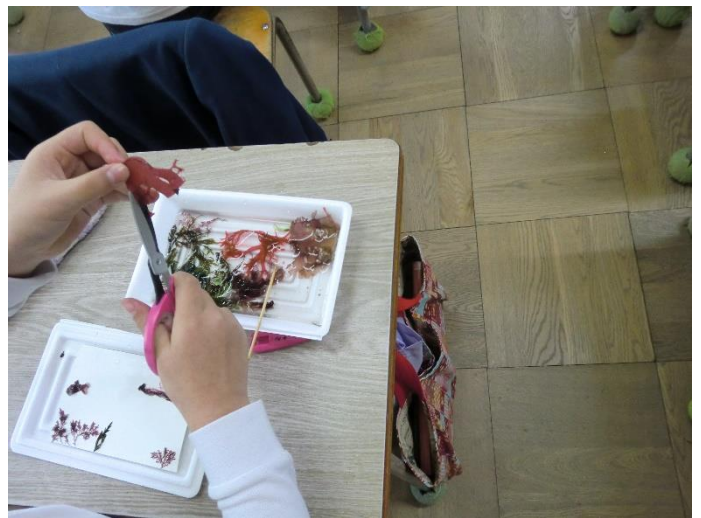
(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	<p>1. 海藻おしばの作り方について話を聞く。</p> <p>海藻おしばを作ろう。(表現・発信の力)</p> <p>○海藻おしばの作り方を知る。</p>	
35	<p>2. 海藻を組み合わせて、海藻おしばを作る。</p> <p>○表したいものを考える。</p> <p>○海藻の色や形を生かして、組み合わせを表現する。</p>	<p>・海藻の色や形を上手く組み合わせるよう指導する。</p>
5	<p>3. 活動のふり返りをする。</p> <p>○活動をふり返り感じたことや、思ったことを書く。</p>	

6. 成果と課題

- ・海が汚れないために、「ごみを捨てずに持ち帰ることが大切」だと感想を書いている児童が多かった。また、「ごみが海に行ってしまうと魚が食べて死んでしまうこと」を理解できている児童もいた。海にごみを捨てず持ち帰ることが大切だとよく分かっていた。
- ・海には、昆布やわかめ、スジアオノリなどたくさんの海藻がいることを理解できた。
- ・海藻おしば体験を通して、自分の表現したいものを作るという達成感を感じている児童が多かった。

7. 活動中の様子



4年 単元名「海を知り、海を守ろう」

阪南市立上荘小学校

1. 単元のねらい

- 「海のゆりかご」と呼ばれるアマモの育成に携わることで、海の生き物や環境について学び、海を守り育もうとする意識を高め、環境保全学習に取り組む姿勢を育てる。
- 海について学んだことや感じたことを表現するために必要な知識や手法を身に付け、積極的に他者に伝え、お互いの考えを交流しようとする態度を養う。

2. 単元の指導計画(全8時間)

配時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1 ～ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海の生き物について知ろう</div> <p>1. 海の生き物について調べる。 ・海の生き物にはどんな生き物がいるのかを知る。 ・アマモとは何なのかを知る。</p> <p>2. 海の中の絵を描く。 ・調べた生き物をよく観察し、絵に表現する。</p>	<p>○タブレットを用いて、海の生き物やアマモについて調べる。</p> <p>○よく観察することで、海の生き物の特徴に気づかせる。</p>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海との関わりを知ろう</div> <p>1. 海との関わりを学ぶ。 ・わたしたちの生活は海と関わって過ごしていることを知る。 ・自分たちにはどんなことができるのか考える。</p>	<p>☆外部講師から、自分たちの生活と海との関係を</p>
5 6 (本 時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アマモの花枝と生き物を採取しよう</div> <p>1. アマモの花枝とその採取方法について知る。 ・アマモの花枝を観察し、どんなところに育っているかを知る。</p> <p>2. 地引網を体験する。 ・浜辺にどんな生き物がいるのか観察する。</p>	<p>☆外部講師から、アマモの花枝と、その採取方法について説明していただく。</p> <p>○海に引率し、アマモの花枝採取と生き物調査を行う。</p> <p>※準備物(講師さんが持参) ・防水デジタルカメラ(多数)</p>

		・振り返りワークシート
7 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海藻おしばをしよう</div> <p>1. 海藻について知る。</p> <p>2. 海藻と海の生き物の関係について知る。</p> <p>3. 海藻おしばを体験する。</p> <p>4. 自分たちにできることを考える。</p>	<p>☆外部講師から、海藻おしばの方法、海藻と海の生き物の関係について教えていただく。</p> <p>※準備物(海藻は講師さんが持参)</p> <p>・個人用小皿・竹串・ストローを各31</p> <p>・振り返りワークシート</p>
<p>他教科等関連項目</p> <p>教科名 他教科等関連項目</p> <p>図画工作科:海の生き物を描こう(5月)</p> <p>社会科:下水のゆくえ(5月)</p> <p>社会科:大阪府の郷土(1月)</p> <p>理科:水のすがたとゆくえ(3月)</p>		

3. 本時のねらい

- アマモについて知る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
10分	1. アマモの種子と、その採集方法について知る。	★海で活動する際の注意点を確認する。
	アマモの種子と生き物を採集しよう	
40分	2. アマモの種子を採集する。 3. アマモ場に入り、生き物を採集する。	<p>★活動区域を区切り、児童に周知する。</p> <p>★教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。</p>

15分	4. 採集した生き物を観察する。	☆外部講師から、それぞれの生き物について解説して頂く。
10分	5. 海の生き物の分類方法について知る。	
15分	6. 採集した生き物の種類を知る。	★生物の種類を知ること で、アマモ場に多様な生物がいることに気づかせる。

5. 成果と課題

- ・海洋教育に取り組む中で、海洋に目を向けるだけでなく、身近にある、山、川、里も海とつながっていることに気づくことができた。
- ・多くの種類の生き物が採れてとても喜んでいました。アマモ場にはたくさんの生き物がいるということを実感し、阪南市の海に興味を持つことができた。
- ・海のごみにも気が付き、きれいな海にすることの大切さを考えることができた。
- ・自分たちが暮らしている身近にある海をきれいにしていくには、どんなことができるのかを考えることができた。

6. 児童の感想・様子

- ・アマモがたくさんある海は、きれいな海だということがわかった。きれいな海づくりをこれからもしていきたい。
- ・海も呼吸していることがわかった。日ごろから海にゴミを捨てないようにしたり、川にもゴミを捨てたりしないようにしていきたい。
- ・これからも海や海の生き物のことをもっと知りたい。

5年 「大阪湾で行われている漁の仕方について知ろう」

(11時間)

阪南市立上荘小学校

1. 単元目標

- 大阪湾の漁の仕方に興味を持つ。
- 様々な漁の違いを知り、それぞれの漁の良さや特徴を知る。
- 漁師さんの話から、仕事への向き合い方ややりがいについて考え、ふりかえる。

2. 単元の指導計画 (全11時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1, 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">大阪湾の漁の仕方について調べてみよう。</div> <ol style="list-style-type: none">インターネットで、大阪湾の漁師はどの様に魚を獲っているのかを調べる。ワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none">○次時に外部講師から話を聞くので、事前学習をする。○タブレットを使って、漁の仕方を調べる。
2	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">大阪湾では、どんな漁の仕方があるのか話を聞こう。</div> <p>大阪湾という海についての話を聞く。</p> <ol style="list-style-type: none">① 大阪湾の地形について② 大阪湾にはどんな生き物がいてるのか③ 大阪湾での漁の仕方について	<ul style="list-style-type: none">○話を聞きながら、メモを取る。
3	4, 5 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">尾崎漁港で働く漁師さんから、それぞれの漁の仕方について聞こう。</div> <ol style="list-style-type: none">① それぞれの漁を専門にしている漁師さんから漁の特徴を聞く。② もっと聞きたいこと、疑問に思ったことを質問する。	<ul style="list-style-type: none">○話を聞きながら、メモを取る。

4	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">尾崎漁港の漁師さんへ感謝の手紙を書こう</div> <p>○聞いた話を振り返り、感謝の手紙を書く。</p>	○印象に残った点も踏まえて手紙を書く。
5	7 ～ 1 1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">漁師さんから聞いた漁の仕方をまとめよう。</div> <p>○模造紙に、それぞれの漁の仕方についてくわしくまとめていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 巻き網漁業 2. 底引き網漁業（板引き網） 3. 底引き網漁業（石げた網） 4. 刺網漁業 5. 流し網漁業 6. 小型定置網漁業 7. たこつぼ漁業 	○漁師さんから聞いたこと以外にも、インターネットや本で調べたこともまとめる。

4. 他教科等との関連

○社会「水産業の盛んな地域」

巻き網漁などの漁の仕方から、漁港の仕組み、私たちの食卓に魚が届くまでの流れを知る。漁師という仕事の大変ややりがいなどを知る。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・実際に漁港の様子や水揚げされた魚を見て、漁師の仕事に興味を持つ。
- ・様々な漁業の仕方を知る。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	<p>1. 漁港の様子を見学し、漁港の仕組みについて話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">尾崎漁港で働く漁師さんから、それぞれの漁の仕方について聞こう。</div>	
3 5	<p>2. 尾崎漁港の漁師さんから漁業の説明を聞き、知りたいこと疑問に思ったことを質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 巻き網漁業 ② 底引き網漁業（板引き網） 	・聞いたことを忘れないようにメモをとる。

	③ 底引網漁業（石げた網） ④ 刺網漁業 ⑤ 流し網漁業 ⑥ 小型定置網漁業 ⑦ たこつぼ漁業	
5	3. 活動のふり返しをする。 ○活動をふり返し感じたことや、思ったことを書く。	

6. 成果と課題

- ・社会で学習した「水産業のさかんな地域」のことについて、実際に仕事をしている漁師から話を聞くことができ子どもたちは興味津々に話を聞いていた。船のエンジンや汽笛の音、さらに漁を終えて帰ってきた船をみることもできた。水揚げされた魚を実際に見ることができた。
- ・子どもたちの感想から、「僕たちが魚を食べるまでには、漁師さんたちがこんなに大変なことをしているんだと知って驚きました。」という感想があり、漁師の仕事の大変さややりがいについて知ることができた。
- ・「魚は苦手が残すことも多かったけど、これからは残さず食べようと思いました。」という感想があり、食べ物大切さや、感謝する気持ちを持つことにつながった。

6年 単元名

見直そう！わたしたちの生活～海洋プラスチック問題～

阪南市立上荘小学校

1. 単元目標

- ・プラスチックの使用削減、回収とリサイクルの大切さを学ぶ。
- ・マイクロプラスチックが海洋環境を汚染し、海鳥やウミガメなど様々な生き物に影響を与えていることを知る。
- ・海洋マイクロプラスチックは私たちの生活から河川や雨水溝を通じて海洋に運ばれていることを知る。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることを理解している。

○思考力、判断力、表現力等

環境保全のために自分には何ができるのかを考え、必要な情報を取捨選択しわかりやすくまとめ、学校全体に発信することができる。

○学びに向かう力、人間性等

環境保全のために、友だちと協力して課題を積極的に解決している。

3. 単元の指導計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1 2	○外部講師の方から、海に関する話を聞く。 ・大阪湾について ・アマモについて ・校区の里海にいる生き物について	☆岩井さんから海に関する話を聞く。 ○大阪湾や校区の里海について知り、特色ある校区に興味を持たせる。 ○これからの学習についての見通しを持たせる。
2	3 4	○尾崎の海で、生き物見つけとクリーンアップ活動 ・地引き網体験や生き物探しをする。 ・見つけた生き物について知る。 ・海に捨てられているゴミには、どのようなゴ	☆岩井さんから海の生き物やゴミについて聞く。 ○生き物と触れ合うことで、生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。

		ミが多いか調べ、海の清掃活動を行う。	○海洋ゴミの多さに気づかせ、新たな学習計画をたてさせる。 ○海に落ちているゴミは家庭ゴミが多いことに気づかせる。
3	5 6	○尾崎漁港の漁師さんにお話を聞く。 ・海の底のごみを見せてもらう。 ・ゴミの種類を調べる。 ・大阪湾でとれる魚について教えてもらう。 ・せりを見学し、漁師さんの仕事自分たちの生活につながっていることを知る。	○家庭ゴミの多さに気づかせ、自分たちにできることを考えさせる。 ○自分たちの生活とゴミ問題が関係することを理解させる。 ○一人ひとりがどのようにすればゴミが減るのか考えさせる。
4	7 (本時) 8 9	○学習したことをスライドにまとめる。 (グループ) ・伝えたいテーマを決める ・役割を分担し、班で協力しながら行う。	○他校の児童にも見てもらう目的で作成する。 ○全校児童に作成したスライドを見てもらい、6年生の活動を知ってもらう。 ○環境保全のため、児童たちに協力を訴えさせる。
5	10 11	○他校の取り組みを見て、感想を書く。 ・初めて知ったこと ・もっと詳しく知りたいと思ったこと ・良いなと思ったこと ○これから自分たちにできることについて考える。	○自分たちが学習したことと関連させて感想を書かせる。 ○「わたしたちの里海」を守るために自分ができていることを具体的に考えさせる。

4. 他教科等との関連

- 国語科「私たちにできること」「いちばん大事なものは」「聞いて、考えをふかめよう」
- 理科「自然とともに生きる」
- 道徳科「愛華さんからのメッセージ」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分たちの生活と大阪湾の環境への影響を知り、大阪湾の環境保全に向けて自分たちにできることを考える。
- ・プラスチックの使用削減、回収とリサイクルの大切さを全校児童に伝えるために、わかりやすくスライドにまとめる。
- ・マイクロプラスチックが海洋環境を汚染し、海鳥やウミガメなど様々な生き物に影響を与えていることをわかりやすく伝える。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	<p>○海洋プラスチックを減らすための取り組みを考えよう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、課題意識を持ち、自分たちにもできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚よりプラスチックごみの方が多くなる。 ・尾崎の海での地引網体験でたくさんの海の生き物がいた。 ・魚たちが安心して暮らせる海にしたい。 ・尾崎漁港の漁師さんも海のごみが多いって言っていた。 ・外国からのプラスチックごみも流れてきていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活と海が関係していることを意識させる。
25	<p>○伝えたいテーマを決め、グループでスライドを作る。</p>	<p>○他校の児童にも見てもらう目的で作成する。</p> <p>○全校児童に作成したスライドを見せられ、6年生の活動を知ってもらう。</p> <p>○環境保全のため、児童たちに協力を訴えさせる。</p>
10	<p>○学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけるだけでなく、自分たちも率先して取り組んでいかななくてはいけない。 ・いろいろな人に興味を持ってもらうための工夫が必要だ。 	<p>○たくさんの人に自分たちの活動を共感してもらい、協力してもらうにはどうしたらいいのか考えさせる。</p>

6. 成果と課題

- ・児童たちは「海にごみを捨ててはいけない」ということはわかっていたが、実際に海にいる生き物に触れたり、海にあるゴミを見たり、拾ったりすることで、「なぜ、海にごみを捨ててはいけないのか」ということを自分事として考えることができていた。
- ・海の生き物や海洋ゴミに興味を持ち、調べ、スライドにまとめることができた。
- ・ゴミ拾いをした際、ビニール袋やペットボトルのごみが多かったことから「買い物のときには、マイバックを使い、ビニール袋をなるべく使わないようにする」「ペットボトルの飲み物を買うのではなく、マイボトルを持ち歩くようにしたい。」等の意見が出てきた。児童たちが海を守るために、自らできることを考え、実行しようとする姿が見られた。